

リアホサ

聖文に喜びを
見いだすようになる,
14, 16, 20ページ

横道ではなく、上を見てごらん, 42ページ

将来、伝道に出る人への
メッセージ, 48ページ

子供の皆さんにとって、
モルモン書の年です, 60ページ



複製は禁じられています

「命の木」 ウィルソン・J・オング画

ニーファイ第一書第8章で、リーハイは命の木の示現について語っています。

「そして主に祈り終えると、大きく広々とした野原が見えた。

そして、一本の木が見えたが、その実は人を幸せにする好ましいものであった。

そこで、行ってその木の実を食べると、それは、今までに味わったどんな実よりもずっと甘いことが分かった。

またその木の実は白く、今までに見たどんな白いものにも勝って白かった。……

それから、一本の鉄の棒が見えた。それは川の岸に沿ってずっと延び、わたしの立っているそばの木の所まで達していた。」

(1ニーファイ8:9 - 11, 19)



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
豊かな人生を送る
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
家庭訪問による
見守りと教え導く務め

特集

- 16 モルモン書の中から
答えを見つける
サラ・D・スミス
6人の会員が、モルモン書が自分
たちの生活にもたらした変化につ
いて語っています。

表紙
絵/ジェフ・ワード



- 20 世界の不思議を再発見し……
靈的無関心という危険を避ける
アダム・C・オルソン
マチュピチュについて新しい事実
を見つけている研究者たちのよう
に、わたしたちもモルモン書を学
ぶ度に福音についての知識を見
つけています。
- 24 日々の祝福に神の手を認める
D・トッド・クリストファーソン長老
「日ごとの食物」を神の手から頂
こうと求めることは、神を信頼す
ることを学ぶうえで大切な役割を
果たします。
- 32 ジョージ・アルバート・スミス
——自分が教えたとおりに
生活した人物
テッド・バーンス
今年のメルキゼデク神権および
扶助協会で学ぶテキストの紹介。

シリーズ

- 8 10月の大会ノート
- 10 教会での奉仕——
主の方法によって導く
クレグ・メリル
- 12 キリストについて語る——
訪問教師がわたしを
イエス・キリストのもとへ
導いてくれました
ジェーン・P・パウワース
- 14 わたしたちの家庭、
わたしたちの家族——
モルモン書を子供たちが
愛するようになるために、
どう助けたらよいか
クライド・J・ウィリアムズ
- 38 末日聖徒の声
- 74 教会のニュース
- 79 家庭の夕べのためのアイデア
- 80 また会う日まで——
熟練者から学ぶ
ジョージ・C・ロビンソン

上を見る

42

42 わたしたちに対する指導者の言葉
——上を見る
カール・B・クック長老

こんげつごう なか かく
今月号の中に隠れている
リアホナを捜しましょう。
ヒント——
たいへいよう わた
太平洋を渡るための
コンパス



52



- 46 そここが知りたい
- 48 聖約を守る——伝道に出ようと
する人々へのメッセージ
ジェフリー・R・ホランド長老
宣教師として神性の力を受けるた
めの鍵があります。
- 52 2012年のミュニシャルのテーマ
中央若い女性会長、
中央若い男性会長
「立って光を放ちなさい。それは、
あなたがたの光がもろもろの国民
のための旗となるためであ[る。]」
(教義と聖約 115:5)
- 54 ポスター——光を放ちなさい
- 55 教えに教え——
教義と聖約 115:5
- 56 伝道地から——
二つの祈りにこたえられた神
カルロス・イバン・ガルメンディア・パチエロ
- 57 忠実でありなさい
ジェラルド・コセー長老
大切な面接のときに、自分の信仰
に忠実であるかどうか瞬時に決
めなくてはなりませんでした。



64

- 58 石と矢と雪玉
デビッド・L・フリッシュニクト
いじわるな人たちの横を、どのよ
うに通り過ぎればよいでしょう。
レーマン人サムエルのようにする
ことにしました。
- 60 モルモン書を味わう
モルモン書を読んで、毎週この表
に色をぬりましょう。
- 63 特別な証人——
どうやって目標を達成しようか?
M・ラッセル・バラード長老
- 64 しょうきょうかいを かていでも
——せんたくの じゆうは
自分で えらぶための
たまものです
- 66 イエス様のお話——
モルモン書はイエス・キリストに
ついて教えています
ダイアン・L・マンガム
- 68 海をこえて友達を作る
ジェーン・ハンセン・ラセッター
ユタとトンガの初等協会の子供た
ちが知り合いになります。
- 69 天のおん父はそばにいてくださる
ローズマリー・M・ウィクソム
天のおん父は、子供の祈りを聞き、
こたえてくださいます。
- 70 ちいさな おともだちへ

インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

リアホナ 2012年1月号
第14巻1号(10481300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトル

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・バイパー

顧問: キース・R・エドワーズ, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, ペア・G・マーム

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: スーザン・バレット, ライアン・カー

編集スタッフ: プリタニー・ピーティ, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリーン・ポーター・ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, リア・マクラナハン, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・フਾਲス, ジョアン・ビンボロー, ボール・バンデンバーク, マリッサ・A・ウイティン, メリッサ・ゼンテノ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ボット, トーマス・S・チャイルド, コリン・ヒンクレー, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスターマカー, フライアン・W・キューギ, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, キニー・J・ニコルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒113-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)
普通号/大会号 120円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ Liahona.lds.org からお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: Liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語 (発行頻度は言語により異なります。)

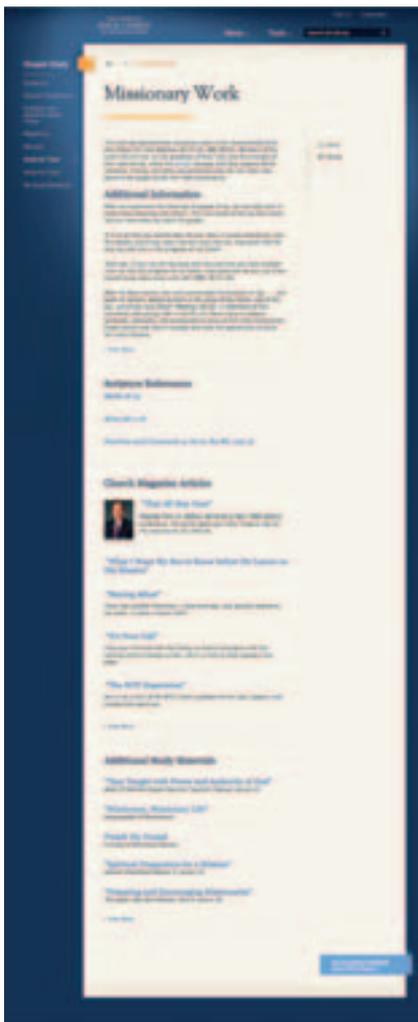
©2012 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

January 2012 Vol. 36 No. 1. LIAHONA (USPS 311-480)
English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



成人

今月号の記事の中には、聖典、特にモルモン書について採り上げたものがあります(14, 16, 20ページ参照)。2010年4月の総大会で、デビッド・A・ベドナー長老は、どのようにモルモン書の研究が家族を強めるかについて語りました。lds.org/general-conference/2010/04/watching-with-all-perseveranceで、ベドナー長老のこの説教を読んだり聞いたりすることができます。

マチュピチュの旅行案内人が、福音を学ぶための3つの提案をしています(20ページ参照)。Liahona.lds.orgで、この世界有数の景観の写真を見ることができます。

青少年

将来伝道に出る人々に向けたホランド長老の勧告を読んだ後で、<http://lds.org/study/topics/missionary-work> [英語]にアクセスすれば、伝道活動に関する記事や情報を見つけることができます。

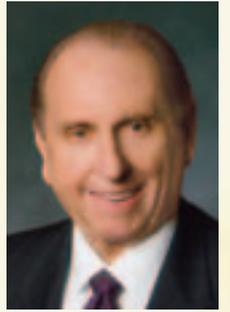
今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- イエス・キリスト, 9, 24, 40, 66, 80
- 態度, 4, 42, 52, 63
- 天使, 47
- 依存性, 16
- 伝道活動, 8, 32, 39, 41, 46, 48, 56, 55, 58, 69, 70, 72
- 祈り, 8, 24, 38, 42, 55, 58, 69, 70, 72
- 教え, 14, 80
- 同性に引かれること, 47
- 改宗・改心, 16
- 奉仕, 10, 12, 24, 32, 38, 46
- 家庭訪問, 7, 12
- 希望, 4, 16
- ホームティーチング, 10
- 教会歴史, 32
- 御霊に従う, 41
- 悔い改め, 16
- ミュージカル, 52, 54, 55, 56
- 慈愛, 7, 12, 32
- 55, 56
- 指導力, 10
- 目標, 63
- 試練, 24, 40
- 模範, 52, 54, 57, 70,
- 信仰, 24, 57, 63
- 72
- スミス, ジョージ・アルバート, 32
- モルモン書, 14, 16, 20, 40, 60, 66
- 聖文研究, 14, 16, 20, 40, 55, 60
- 勇気, 4, 8, 57
- 友情, 47, 68
- 聖約, 48
- 預言者, 32
- 選択の自由, 24, 64

あなたの言語で

www.languages.lds.orgで、「リアホナ」や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。



トーマス・S・
モンソン大管長

豊かな人生を送る

新しい年の初めに当たり、わたしはあらゆる所にいる末日聖徒の皆さんに、わたしが豊かな人生と呼ぶ人生を個人として熱心に、そして大いに探求するように勧めます。豊かな人生とは、数多くの成功と善い行いと祝福に満ちあふれた人生です。学校で様々な事柄のABC、すなわち基本原則を学ぶように、わたしたち皆が豊かな人生を得るのに役立つABCを提案します。

前向きな態度を持つ

ABCのAは、態度 (Attitude) です。アメリカの心理学および哲学の先駆者であるウィリアム・ジェームズは次のように書いています。「わたしたちの世代における最も偉大な革命は、人間は心の持ち方を変えることによって周りの状況を変えられるということを発見したことである。」¹

人生の大半は自分の態度で決まります。物の見方や人への対応の仕方で、すべてが異なってきます。最善を尽くし、その後、自分の

置かれている状況を良しとすることを選ぶならば、どのような状況にあっても平安と満足を得ることができます。

著述家、教育者、そしてキリスト教の牧師であるチャールズ・スウィンドルは、次のように述べています。「わたしにとって、態度は……過去よりも、……金銭よりも、状況よりも、失敗よりも、成功よりも、他人が何を思い、言い、行いかよりも重要である。容姿、才能、技能よりも重要である。態度は会社や教会や家庭の運命を分ける。驚くべきは、わたしたちは日々その日に執る態度を選べるということである。」²

風向きを変えることはできませんが、帆を調節することはできます。最大の幸福と平安と満足を得るために、わたしたちが前向きな態度を選ぶことができますように。

自分自身を信じる

Bは信じる (Believe) です。すなわち自分自身を、周りの人を、そして永遠の原則を信じることです。

自分自身に、ほかの人に、そして天の御父に正直であってください。神に正直でないままついに手遅れとなってしまう人物に、ウルジーずうききょう枢機卿しゆききやうがいます。シェークスピアによれば、ウルジー卿は長年にわたって3人の王に仕

え、富と権力を享受しました。しかし最終的に、気の短い王に権力と財産を取り上げられてしまいました。ウルジー卿は次のように叫びました。

「おれが陛下に仕えたせめて半分の熱意で

神に仕えていたら、こんな年になって、

素っ裸で敵の中に放り出されることはなかっただろう。」³

17世紀のイギリスの聖職者であり歴史家であるトーマス・フラーは、次のような真理を書き記しています。「自分の信条に従って生きない者はほんとうに信じてはいない。」⁴

自分自身に限界を設けないでください。また、ほかの人が何と言おうと、自分ができることには限界があると思いたまわないでください。自分自身を信じ、次に自分の可能性を実現するように生活してください。

皆さんはできると信じていることを達成することができます。信頼し、信じ、信仰を持ちましょう。

勇気をもって困難に立ち向かう

Cは勇気(Courage)です。勇気は、死を恐れぬ勇敢な態度というよりも、むしろふさわしく生きる決意であると考えるときに、価値があり意義のある徳となります。

アメリカの随筆家であり詩人であるラルフ・ワルド・エマーソンは次のように述べています。「何を行うにしても、勇気が必要である。どの道を進むことに決めても、『あなたは間違っている』と言う者が常にいる。そして自分を批判する者の言うとおりに思いたくなるような困難が常に生じる。行動の計画を立てて最後までやり遂げるには、兵士が必要とするような勇気が求められる。平和が勝利を収めるとしても、勝利を得るためには勇敢な男女が必要なのである。」⁵

恐れを抱いたり落胆したりする時があるでしょう。自分は負けたと感じることもあるでしょう。勝ち目がまったくないように思えるかもしれません。ゴリアテと戦おうとしているダビデのような気分になる時もあるでしょう。しかし覚えていてください。ダビデは勝ったのです。

達成したい目標に向かって第一歩を踏み出すには勇気が必要ですが、つまづいて、もう一度目標に向かって努力しなければならないときには、いっそう大きな勇気が求められます。

努力しようと決意し、価値ある目標に向かってひたむきに取り組み、必ずやって来る困難に立ち向かうだけでなく、必要なときにはもう一度努力する勇気を持ちましょう。時に勇気とは一日の終わりに小さな声で「明日また

やってみよう」と言うことなのです。

新しい年の旅の始まりに際し、わたしたちがこれらのABCを覚えて、前向きな態度を培い、目標や決意を達成できると信じ、どのような困難に遭おうとも立ち向かう勇気を養うことができますように。そのとき、わたしたちは豊かな人生を手にするでしょう。■

注

1. ウィリアム・ジェームズ。ロイド・アルバート・ジョンソン編、*A Toolbox for Humanity: More Than 9000 Years of Thought* (2003年) 127で引用
2. チャールズ・スウィンドル。ダニエル・H・ジョンストン、*Lessons for Living* (2001年) 29で引用
3. ウィリアム・シェークスピア「ヘンリー8世」第3幕、第2場、456-458行。筑摩書房『シェークスピア全集5史劇II』中野里皓史訳、338
4. トーマス・フラー。H・L・メンケン編、*A New Dictionary of Quotations* (1942年) 96で引用
5. ラルフ・ワルド・エマーソン。ロイ・B・ザック、*The Speaker's Quote Book* (2009年) 113で引用

このメッセージから教える

前向きな態度、自分自身を信じることで、勇気が助けとなったときの経験を家族に話してもらおうとよいでしょう。または、これら3つの原則の例を聖典の中から見つけるように勧めてください。聖句や自分自身の経験についてよく祈りながら考え、教える準備をしてください。

嵐を切り抜ける勇氣

マディソン・モーリー

ステーキ若い女性キャンプの2日目の夜に、ひどい暴風雨と竜巻に遭いました。わたしのワードからは24人ほどの若い女性と2人の指導者がキャンプに参加していましたが、一つの小屋に全員で避難しなければなりません。雨は激しく降っていて、風はますますひどくなっていきます。さっきステーキ会長が安全を求めて祈ってくれたのではないかと、わたしは絶えず自分に言い聞かせていなければなりません。ワードとしても小屋の中で一緒に祈り、個人でも祈りました。

多くの若い女性がおびえていましたが、その理由は容易に分かりました。わたしたちの小屋はあまり頑丈でなく、しかも川のすぐそばにあったのです。20分ほどたったころ、嵐がとてつもなくひどくなったため、ステーキ全体が各ワードの小屋から高台にある指導者の小屋に走って行かなければなりません。ステーキ会長がもう一度祈り、わたしたちは自らを元気づけようとして、賛美歌や初等協会の歌、キャンプの歌を歌いました。おびえていたのは確かですが、何事もなく終わるだろうと感じていました。30分後、ワードの小屋に戻れることになりました。

後に、あの晩の竜巻がどんなだったかを知りました。竜巻は二つの嵐に分かれていたのです。そして一つはわたしたちの右側を、もう一つは左側を回って進んで行きました。わたしたちは最も激しい暴風雨を免れていたのです。

あの晩、神がわたしたちの祈りを聞いて、最もひどい嵐から守ってくださったことを知っています。神が必要となさらないかぎり、竜巻が分かれたりするのでしょうか。そしてわたしは次のことを知っています。人生の嵐の中で、わたしたちは常に天の御父に祈ることができ、御父はわたしたちの祈りを聞いてこたえ、安全に切り抜けるために必要な勇氣と守りを与えてくださるのです。

しれいかんモロナイ

しれいかんモロナイは、ゆうきを もって こんなんに 立ちむかいました。しんりと じゆうと しんこうを とても 大切に しました。そして ニーファイ人が じゆうを まもれるよう 人生を ささげて たすけました。あなたも、ゆうきを もって こんなんに 立ちむかうこと によって、しれいかんモロナイの ように なることが できます。下の はたや べつ の 紙に あなたと かぞくに とって 大切な ものを 書けば、あなたじしんの じゆうの はたを 作ることが できます。

もっと くわしく 知るために つぎの せいくを 読み ましょう

アルマ 46 : 11 - 27 — じゆうの はた

アルマ 48 : 11 - 13, 16 - 17 — モロナイの とくしつ



IMM © CORBIS



この資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

家庭訪問による 見守りと 教え導く務め

「慈愛とは慈しみの気持ちをはるか慈に超えるもので[す]」と大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は教えています。「慈愛は主イエスキリストを信じる信仰から生まれるものであり、主の贖いが……作用している結果なのです。」¹ 扶助協会の姉妹たちにとって、家庭訪問は慈愛を行い、救い主を信じる信仰を働かせる大切な手段となり得るものです。

家庭訪問を通して、わたしたちはそれぞれの姉妹に連絡を取り、福音のメッセージを分かち合い、その姉妹と家族の必要を知るように努め、これらの行いによって姉妹たちを見守ります。「家庭訪問は、達成率よりも人に焦点を当てたときに、主の業になります」と、中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹は説明しています。「実際のところ、家庭訪問は決して終わりがありません。これは務めというよりも、生き方なのです。訪問教師として忠実に働くことは、主の弟子であることを示す証拠です。」²

祈りをもって絶えず見守るとき、それぞれの姉妹とその家族に仕えて彼らの必要を満たすための最善の方法が分かります。仕え、教え、導く方法は、大きなことからそれほど大きくないことまで様々です。「人を高め、祝福するためには、ほんの小さな奉仕で十分なことがよくあります。相手の家族について聞



く、ちょっとした励ましの言葉をかける、心から褒める、短い感謝の手紙、簡単な電話などです」と、トーマス・S・モンソン大管長は教えています。「よく観察し、気づき、御霊の促しに従って行動するなら、大いに善を行うことができます。……扶助協会の訪問教師という大きな組織が、数え切れないほどの奉仕の業を行っています。」³

聖文から——

ヨハネ 13:15, 34-35; 21:15; モーサヤ 2:17; 教義と聖約 81:5; モーセ 1:39

何ができるでしょうか?

1. あなたが友として愛し、心にかけていることを担当の姉妹たちに感じてもらえるように、どのようなことを行っていますか。
2. どうすればもっとうまく人々を見守り、助けを与えることができるでしょうか。

信仰、家族、扶助

わたしたちの歴史から

1843年、イリノイ州ノーブーの教会員は4つのワードに分けられました。その年の7月、扶助協会の指導者は各ワードに4人の姉妹から成る訪問委員会を設けました。訪問委員会の責任には、人々の必要を見極め、寄付を集めることが含まれていました。扶助協会はこの寄付を用いて、助けを必要としている人を援助しました。⁴

訪問教師はもう寄付集めは行っていませんが、霊的および物質的な必要を見極め、それらを満たすために働くという責任は続いています。中央扶助協会第2代会長であるエライザ・R・スノー（1804-1887年）は次のように説明しています。「教師は、……家に入ってその中の霊的な状態を知ろうとすると、必ず主の御霊を豊かに受けているようにするべきです。……その家の霊的な状態に対処できるように、〔御霊を〕得るために神と聖霊の前に懇願してください。……そうすれば、平安と慰めの言葉を語りたいと感じることでしょう。そして姉妹が寒さを覚えているのを知ったときには、子供を抱き締めて温めるようにその姉妹を温かく受け入れたいと感じることでしょう。」⁵

注

1. ヘンリー・B・アイリング「扶助協会の不朽の受け継ぎ」『リアホナ』2009年11月号, 121
2. ジュリー・B・ベック「扶助協会——神聖な業」『リアホナ』2009年11月号, 113-114
3. トーマス・S・モンソン「あなたを導く3つの目標」『リアホナ』2007年11月号, 120-121
4. *Daughters in My Kingdom: The History and Work of Relief Society* (2011年), 105 参照
5. エライザ・R・スノー, *Daughters in My Kingdom*, 108 で引用

10月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ[る。]……わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

2011年10月の総大会を復習する際に、このページ(および今後の「大会ノート」)を使って、生ける預言者と使徒の最近の教えを学び、生活に取り入れることができます。



大会で話された逸話

一人で立つ勇氣

「わたしが信念に従う勇氣を問われる経験を初めてしたのは、第二次世界大戦終盤にアメリカ海軍で働いていたときだったと思います。……

最初の1週間が過ぎて初めて迎えた日曜日のことをわたしは決して忘れないでしょう。兵曹長からうれしい知らせがありました。カリフォルニアの冷たい風に吹かれながら練兵所に気をつけの姿勢で立つわたしたちに、兵曹長の命令が聞こえてきたのです。『今日は全員教会に出席する。全員といってもわたしは別だ。わたしは休む。』そして、大声で言いました。『カトリックの者は、キャンプ・ディケーターで集会を行う。3時まで戻って来るな。前へ進め。』たくさんの兵士が行進して行きました。兵曹長は次に『ユダヤ教の者は、キャンプ・ヘンリーで集会を行う。3時まで戻って来るな。前へ進め。』先ほどよりも小さな集団が動き出しました。次に兵曹長は言いました。『残ったプロテスタントの者は、キャンプ・ファラガットの講堂で集会を行う。3時まで戻って来るな。前へ進め。』

こう言われるのではないかと即座に思いました。『モンソン、おまえはカトリックではない。ユダヤ教でもない。プロテスタントでもない。おまえはモルモンだ。だから、

練兵場でわたしの横や後ろにだれかが立っていることをそのとき初めて知りました。



ここに立っている。』わたしはまったくの孤独でした。確かに勇氣も覚悟もありました。でも、孤独でした。

そのとき、聞いたことがないような、兵曹長の優しい言葉が耳に入りました。わたしの方を見て、こう尋ねたのです。『おまえたちは一体どこに所属しているのかね。』練兵場でわたしの横や後ろにだれかが立っていることをそのとき初めて知りました。各々がほとんど同時に言いました。『モルモンです。』振り返ると一握りの水兵がいました。それを見たときの喜びは、どう表現していいかわかりません。

兵曹長は頭をかき、当惑した表情を浮かべて結局こう言いました。『よし、行ってどこかに集会の場所を探せ。3時まで戻って来るな。前へ進め。』……

予期していたのとは違う展開になりましたが、それでも必要とあらば、わたしは喜んでそこに一人で立っていたことでしょう。

その日以来、だれも後ろに立っていなかったために、自分一人で立ったことが何度かありました。強く忠実であり続けると、ずいぶん昔に決意していたことに感謝します。そして確かに、そのような場面に遭遇したときには、教会を擁護する備えがいつもできていました。』

トーマス・S・モンソン大管長

「一人でも氣高く立ち」『リアホナ』2011年11月号、61-62

考えるための質問——

- わたしたちが確固として立つと、ほかの人々にどのような影響を与えるでしょうか。
- あなたの勇氣と確信が試されたときのことを覚えていますか。そのとき、あなたはどのように対処しましたか。
- 確固として立つ備えをするために、今何ができるでしょうか。

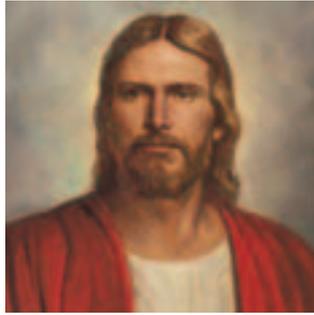
あなたの考えを日記に書くか、ほかの人と話し合ってみてください。

そのほかの資料：聖句ガイド「勇敢：勇氣」。トーマス・S・モンソン「勇氣が求められる」『リアホナ』2004年5月号、54-57。LDS.orgの“Study by Topic” (テーマ別に学ぶ)の“Peer Pressure” (英語)。「若人の強さのために」『信仰をもって前進する』

conference.lds.org で、総大会の説教を読んだり、見たり、聞いたりできます。

行って行う

十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老は、人々がさらに教会について理解するために、以下のことをするよう勧めました。



「完全な愛は恐れを取り除く」
『リアホナ』2011年11月号、
42 - 43 から

1. 「イエス・キリストについて大胆に宣言しなければなりません。わたしたちはイエス・キリストが人類史上最も重要な御方であると信じていますし、そのことを人々に知ってほしいと考えています。」

2. 「義になつた模範となることです。……わたしたちは主が世に示された模範に従って、善と徳の模範とならなければなりません。」

3. 「教会について話すことです。わたしたちは日常生活で自分の信条を人に話す機会に恵まれます。」

預言者の約束

「わたしが天の御父と祈りを通して話をしない日はありません。それは、わたしにとって大切な会話の時間です。この会話がなければ、わたしは道に迷ってしまうことでしょう。このような関係を天の御父との間にまだ築いていない人は、それを築けるよう努めてください。そのように努めると、御父の靈感と導きを生活の中に受けられるようになります。これはこの地上で霊的に生きていくためにだれにとっても不可欠なものです。そのような靈感と導きは御父からの賜物で、求めさえすればだれにでも与えられます。」

トーマス・S・モンソン大管長
『聖なる地に立つ』
『リアホナ』2011年11月号、84

空欄を埋めましょう

- 「祈りを込めて_____を研究するなら、父なる神とその愛子^{あい}を信じる信仰、そして御子の福音を信じる信仰ははぐくまれるでしょう。古代と現代の神の預言者を信じる信仰もはぐくまれるでしょう。_____はほかのどの書物よりも、皆さんを神に近づけてくれます。」(ヘンリー・B・アイリング「証人」『リアホナ』2011年11月号、70 - 71)
- 「_____は、時がたってもきずなが弱まらない忠実な友となります。」(リチャード・G・スコット「聖文の力」『リアホナ』2011年11月号、6)
- 「自分が出遭う試練が不公平なものだと考える人に対しては、_____により、人生のあらゆる不公平が埋め合わされるのです。」(クエンティン・L・クック「うたえぬ歌をも」『リアホナ』2011年11月号、106)
- 「_____があるとき、都合が悪くても、また、人に認められることや見返りを得ることを考えずに、喜んで人々に仕え、人々を助けます。」(シルビア・H・オールレッド「愛はいつまでも絶えることがない」『リアホナ』2011年11月号、115)

啓—— 1. モルモン書； 2. 暗記した聖文； 3. 贖罪； 4. 慈愛

主の方法 によって導く

BYU 経営学修士号 (MBA) プログラム,
ディレクター クレーグ・メリル

どのような召しであっても、
主が示された方法で奉仕し導くとき、
わたしたちは
祝福を与えるだけでなく
祝福を受けます。

ジョーンズ兄弟とその息子はホームティーチャーとしてウィリアムズ家を訪問するよう割り当てを受け、毎月この家族を訪問するようになりました。それらの訪問を通じて、この家族の娘であるキムは、二人が自分のことを気にかけてくれていることが分かりました。彼女は福音についてたくさんの疑問があり、ホームティーチャーといろいろな話をするのを楽しみにしていました。

ある夏のこと、キムは自分に証があるのかどうか分からなくて苦しんでいました。そのころ、ジョーンズ兄弟は別のメルキゼデク神権者と一緒に、若い女性のキャンプに参加するよう頼まれました。キムは後に、ホームティーチャーがキャンプに参加してくれたことが自分にとってどれほど大きな意味があったかについて語っています。キムが家族に語ったところによると、彼女の要望にこたえてジョーンズ兄弟ともう一人の神権者がキャンプ地で神権の祝福を施してくれたとき、キムは救い主の愛について証を得ました。

彼女のホームティーチャーは、ウィリアムズ家族にとって正真正銘の友人でした。二人の影響はキムやその両親にとって、また主にとって大きな意味がありました。

指導力と召し

今日の世では、個々の成長は一般的に、職場での責任の大きさや立場

の重さ、または個人の業績が上がったことを示す昇給によって測られます。その人が重要な貢献をしているのを示すものとして、責任や立場など目につきやすいものに注目しがちです。ですから、多くの人が自分の霊的成長を測る最善の方法を知ろうと悪戦苦闘しているのも驚くには当たりません。

教会で指導者として召されたことがないという理由で、自分の立場について疑問視する末日聖徒が大勢いると聞いています。しかしわたしたちの成長は指導者としての召しによって適正に評価されるものでしょうか。

実際、指導力を発揮するのに召しは必要ありません。真の指導力の構成要素である、鼓舞し勇気づける影響力、そのような影響力を発揮する人々の中には、召されたり責任についていたりしない人もいるのです。教義と聖約第 121 章は、指導力に関する重要な教訓を与えてくれます。

「わたしたちは悲しむべき経験によって学んだ。すなわち、ほとんどすべての人は、少しばかりの権能を得たと思うや、すぐに不義な支配を始めようとする性質と傾向がある。

それゆえに、召される者は多いが、選ばれる者は少ないのである。

いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。」(39 - 42 節)

指導力は、なすべきことを人に命じることと混同されることがよくあります。そのような勘違いは不義な支配につながる可能性があります。次のように言うのは適切ではありません。「わたしが言ったようにしなさい。なぜなら(神権を持つ、あるいは神権によって召された)わたしがそう言っているからです。」第 121 章から得られる貴重な教訓、それは真の指導者たるもの、その地位にあるという理由だけで、皆がその指示に従うはずだと思っはならないということです。むしろ、神権による指導とはまさに招くことです。純粋な知識と偽りのない愛に基づく思いやりで満ちた招きは、常に「わたしがそう言っているのだから」という理由よりはるかに力強い動機となります。

確かに、日ごろ多くの指示を与える指導者は多くのことを成し遂げることができます。しかしそのような指導者は主が啓示された方法で導いていません。さらに、自分たちが導いている人々が持つべき自立する力や自信をはぐくんでもいないのです。

真の指導力

41 節や 42 節には、召し、すなわち権威を伴う地位が力や影響力を及ぼす正当な方法として挙げられていないことに注目してください。むしろ、真



忠実な弟子となる

「教会のすべての指導者は人々が『イエス・キリストに真に従う者』となるよう助けるために召されている（モロナイ 7:48）。……

『真に従う者』になる方法を人々に教える最善の方法は、指導者が自ら模範を示すことである。人々が忠実な弟子となるよう助けるために自らが忠実な弟子となるというこの規範は、教会のすべての召しを支える目的となっている。」

『手引き 第2部 —— 教会の管理運営』
(2010年), 3.1

の指導者の力や影響力は、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛、優しさと純粋な知識により行使されるべきものなのです。与えられている召しあるいは地位に関係なく、以上のような真の指導者としての特質は、召しや地位に関係なく、だれでも発揮することができます。

指導者としての召しは、自転車の補助輪によく似ています。補助輪があれば、子供でも安心して自転車のバランスを取り、乗り方を習得することができます。指導者としての召しを受けた人は、愛し、忍耐し、純粋な知識と優しさにより説得する方法を学ぶ機会にあずかります。またどんな形であれ人の行動を強制しようとするなら、御霊は退き去り、指導の効果は減じるということを学ぶでしょう。

解任された後で、わたしたちは自分が召されていた間に成長し学んだかが分かります。召しという動機がなくても、人々を愛し、仕えることができるようになったのでしょうか。

単に自分がはぐくんできた人格によって、善のために力強い影響力をもって働くことができるようになったのでしょうか。

わたしたちの生涯を通じて、主は繰り返しわたしたちに呼びかけられます。主はわたしたちの心を御存じです。わたしたちが持つ特定の技術や知識、御霊への感受性を主が必要とされるとき、主はわたしたちに呼びかけられます。積極的に主の声を聞き、主が愛されるように愛する気持ちがあるかどうかに応じて、わたしたちに呼びかけられます。

主の方法で良い影響を与える^{すべ}術を身に付けると、まさに自分の生き方によって周囲の人を高める人になります。召されていることが、人々に良い影響を与えるおもな理由ではなくなるのです。それでも、依頼されたら、教会にあって割り当てを受けた場所で立派に奉仕するのです。

わたしたちの奉仕する場が日曜学校であれ、青少年プログラムであれ、

またその責任がホームティーチャーや家庭訪問教師としてであれ、あるいはビショップや扶助協会会長としてであれ、人々への奉仕は救い主に対するわたしたちの愛を表すものです。どのような召しを受けているにかかわらず、主の指示された方法で奉仕し導く人は、祝福を与えるだけでなく祝福を受けるのです。■

訪問教師が わたしをイエス・キリストのもとへ 導いてくれました

ジェーン・P・パウワーズ

「〔主は〕三度目に〔ペテロに〕言われた、『……わたしを愛するか。』
ペテロは……イエスに言った、『主よ、あなたはすべてをご存じです。
わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。』
イエスは彼に言われた、『わたしの羊を養いなさい。』」(ヨハネ 21:17)



家庭訪問の祝福

「多くの女性が、教会に戻って来た理由について、忠実な訪問教師が毎月訪問して導き、助け、愛し、祝福してくれたからだとして述べています。……

あるときは、ただ耳を傾けることだけが訪問の最大の祝福であることもあるでしょう。よく聞くことにより、慰め、理解、癒しが訪れます。また、あるときは、家に行って何か作業をしたり、泣いている子供をなだめたりするなど、行動する必要があるかもしれません。」

中央扶助協会会長第二顧問
バーバラ・トンプソン
「ある者は哀れみの心を持ち、
違いを生み出す」
『リアホナ』2010年11月号, 120

1970年代の終わりごろ、一人の友人から扶助協会と一緒に行動できないかと誘われました。「扶助協会って何なの?」とわたしは尋ねました。友人の答えは『来れば分かるわ』という簡潔なものでした。何ということでしょう。わたしは最初からすっかり心を奪われてしまったのです。

その夏の終わりごろ、リーンが我が家を訪問し、担当の訪問教師になったと告げました。変だなあと思いつつも、そのことに感謝しました。それというのもわたしは教会員ではなかったからです。彼女は忙しいスケジュールの合間を縫って時間を取り、霊的な話をし、何か助けになれることはないかと尋ねてくれました。その熱意から彼女の誠実さが感じ取れました。リーンのこと、リーンが伝えてくれたメッセージを忘れたことは一度もありません。

数年がたって、フランシスがわたしたちのワードに引越して来ました。実際のところ、わたしはまだ教会員ではなかったので、正確には「わたしたちの」ワードとは言えなかったのですが、わたし自身はそう思っていました。そのころ、わたしには幼い娘が二人いましたし、教会の補助組織が教会員の生活にどのような祝福をもたらしているのか理解することができました。雨の日も晴れの日も、新しい

訪問教師であるフランシスはわたしを訪問して、レッスンをしたり、一緒に笑って話をしたり、助けの手を差し伸べてくれました。フランシスがあわただしい午後に訪問してくれたときのことを覚えています。座って話す余裕がないのを察したフランシスは、わたしが娘たちの世話をしている間、コンロにかけてあった作りかけの料理をかき混ぜてくれました。

年月が過ぎ、わたしは引越すことになりました。教会の友人たちと別れるのはほんとうにつらかったのですが、すぐに「わたしの」新しいワードの扶助協会で、強い証^{あかし}と広い心を持つ姉妹たち何人かに出会いました。一人の扶助協会教師が、きれいな飾りの付いた「しななければならないことのリスト」を生徒に1枚ずつプレゼントし、毎日のリストの最初に「人に優しくする」と書くよう勧めてくれました。わたしの両わきに座っていた姉妹たちもわたしも、これはすばらしいアイデアだと思いました。扶助協会の「慈愛はいつまでも絶えることがない」(モロナイ 7:46)というモットーを擁護する言葉だったからです。

それからわたしはある開拓者の女性に関する物語を読みました。その女性が子供だったとき、彼女の家族は預言者から、遠隔地にある末日聖徒共同体の設立



訪問教師は奉仕によって どのような祝福を受けるでしょうか

バーバラ・トンプソン姉妹は、中央扶助協会集会の話の中で、この質問に答える助けを与えています（『リアホナ』2010年11月号、120）。

「わたしは家庭訪問に行く度に、行く前よりも良い気持ちになりました。多くの場合、訪問先の姉妹よりもわたし自身のほうがはるかに高められ、愛され、祝福されました。愛が強まり、奉仕への望みも強まりました。天の御父がどれほどすばらしい方法を用いて、わたしたちが互いに見守り、世話をし合えるようにしてくださったかが分かるようになりました。」

日記に家庭訪問あるいはホームティーチングについての証を書くことを検討してください。

訪問教師は福音のメッセージを分かち合い、時には助けの手を差し伸べます。訪問を受ける姉妹たちは、思いやりを示し、互いに愛し合い、人々をキリストのもとへ導こうと努力している女性たちと交流を図ることで強められます。

その他の情報に関しては、ジュリー・B・ベック「わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業」『リアホナ』2010年11月号、112および、ヘンリー・B・アイリング「扶助協会の不朽の受け継ぎ」『リアホナ』2009年11月号、121を参照してください。

を助けるように言われました。そのようなときに、きょうだいの一人が亡くなるという悲劇に見舞われました。母親は動揺し、家族は深い悲しみに包まれました。

ある日のこと、この少女は窓の外を眺めていました。一家の粗末な家の周辺は、見渡すかぎり一面の雪で覆われていました。少女が地平線をじっと見つめていると、二人の人が彼女の家に向かって一歩一歩足を運んでいるのが見えました。人影がゆっくりと近づいて来たとき、突然少女は二人がだれなのか分かりました。二人は母親の訪問教師だったのです。

その話にわたしは強い衝撃を受けました。わたしは1983年5月にバプテスマを受けました。今こうして自分も訪問教師であることを誇りに思います。「宝石よりもすぐれて尊い」「賢い妻」であることを実際の行動で示すたくさんの女性たちと交わるのが大好きです（箴言31:10）。聖典に記されているように、思いやりを示し、互いに愛し合い、人々をキリストのもとへ導こうと努力している女性とともにいられることはすばらしいことです。■

モルモン書を 子供たちが 愛するようになるために、 どう助けたらよいか

子供たちにモルモン書のお話を教えるときに、
こんな道具が役立ちました。

コーリレーション部
クライド・J・ウィリアムズ

妻とわたしが子育てに忙しかったころ、わたしたちは、5人の子供たちにもモルモン書を愛する心を少しずつでも教えたいと心から願っていました。子供たちに聖文を愛するように教えるときにも、大工と同じで、様々な道具があれば助かることはもちろん、むしろ道具は欠かせないものだと思うようになりました。また、子供たちを教える際に、道具、言い換えれば教える技術を持っていることと、それを活用できることとは大いに異なることも理解するようになったのです。

さらに、子供たちがモルモン書の教えを自分の生活に活用できるよう、また、その教えを現在の世界に結び付けられるよう、その教え方を学んでいく必要があることも分かってきました。子供たちを助けるための様々な方法を活用する力は、実は、後にも先にも、わたしたち自身の聖文を理解する力、その教えが真実であるという^{あかし}証、そしてその教えをわたしたちがどれほど読みたいと思っているかに、かかっていることが分かったのです。

幼い子供たちを教える

聖文の言葉遣いにはある意味で日常とは異なっており、子供の単語力にも限りがありますから、子供たちにモルモン書を愛するように教えることは、なかなか大変です。わたしたちの子供たちが幼かったころは、子供たちが集中できる時間にも限りがありましたし、聖文学習の時間も限られていました。家族で聖文学習をするときには、よく絵入りの聖文を使っていました。

聖文学習で読んだり学んだりした原則を定着させる

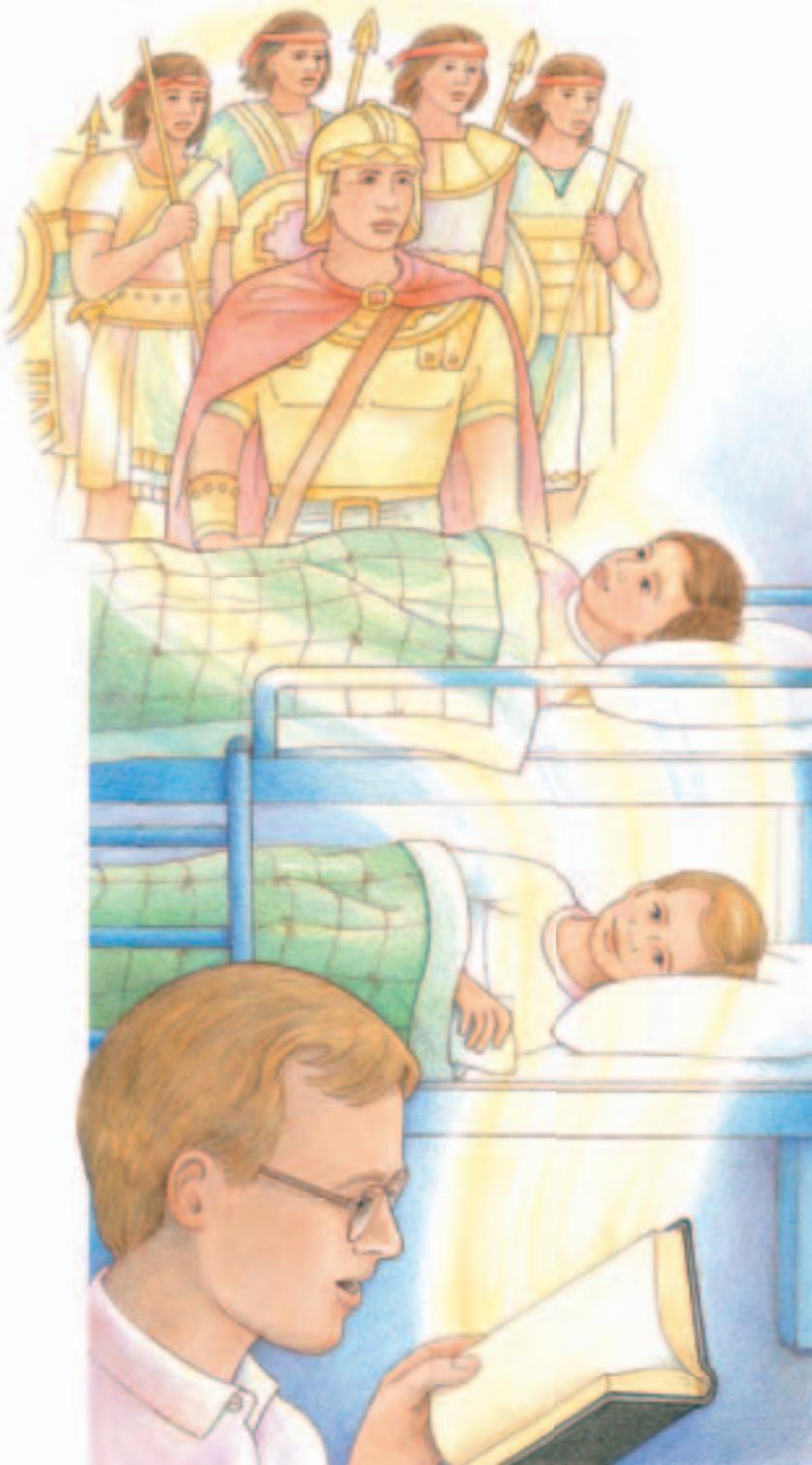
ために、わたしは聖文の物語をよく寝かしつけるときのお話として読んであげたものでした。後年になって、娘はそのことからとても良い影響を受けたと語ってくれています。娘はこう言っています。「物語が何度も何度も繰り返し読まれたから、わたしたちもそれが好きになったのだと思うわ。お父さんがわたしたちのベッドのわきに座って、聖文の物語を読んで聞かせてくれたわよね。わたしたちもそういうお話が好きになったし、何度でも聞きたいとせがんだものだよ。それは、どんなに幼くても、その物語の伝えるメッセージの意味を感じることができたと、お話に登場する人たちが勇敢で忠実だったということが分かったからなの。わたしたちもあの人たちのようになりたいと思ったものだよ。」

家族の必要に応じて、レッスンを仕立て直す

もちろん、子供たちが成長するにつれて、わたしたちもモルモン書やほかの聖典から直接読むようになりました。たとえ、中にはまだ毛布にくるま^{まなこ}っていて、寝ぼけ眼の子供がいたとしても、わたしたちは忠実に毎日聖文を読むよう努力しました。そんなやり方でしたが、今になって子供たちは、ちゃんと聞いていたし、覚えているし、将来のために種がまかれていたと言うのです。

わたしたちは、家庭の夕べの中でも聖文を大切にしました。例えば、聖文ジェスチャーゲームのような活動をよくしました。家族のだれかが聖文の物語から何かの場面を演じて、残りの者がその物語が何の物語か、当てるというゲームです。また、我が家の子供たちは「わたしはだあれ」というゲームも好きでした。わたしたちがいくつかヒントを与え、子供たちはそれがモルモン書に登場する人物のだれかを当てるというゲームです。子供たちは大きくなるに従い、今度はレッスンを準備し、行う側に回って参加するようになったのです。

わたしたちの家庭の夕べも、家族のそのときの必要に応じて、少しずつ変化していきました。原則についてさらに深い理解が得られるように、モルモン書の物語やその考え方を活用するようになったのです。例えば、純潔について教え、ポルノグラフィを避けるようにというレッスンのときには、アルマ書第39章にあるアルマが息子のコリアントンに与える勧告の話を使って教えました。体に入れ墨を入れるようなことをしないというレッス



ンのときには、アルマ書第3章のアムリサイ人の物語が良い教材になりました。

また、兄弟同士の争いについて上手に教えようとしたときには、ニーファイ(1ニーファイ7:20-21;16:4-5参照)やヤコブ(2ニーファイ2:1-3参照)やコリアントン(アルマ39:1,10参照)の生涯の話を基にレッスンを準備しました。アルマ書第14章12節から28節に書かれている

**わたしたちは
モルモン書の物語を
寝かしつけるとき
のお話として
よく利用しました。**

アルマとアミュレクの厳粛な記録からは、苦難に遭っても耐え忍ぶことを教えられます。こうしたことやそのほか数多くのことから一つの重要な原則を学びました。それは、子供たちが実際の生活でそのような問題に巻き込まれないうちに、そうした問題について確実に教えておくということです。

質問する

子供たちと一緒に聖文を読むだけでなく、質問をすることの重要性にもわたしたちは気づかされました。質問することで、子供たちは読んでいる部分の深い意味に気づくようになるのです。どの程度複雑な質問をするかは、子供たちの年齢によってまちまちです。しかし、大切なことは、聖文の物語の深い意味やその応用について常に探し求めるように教え、モルモン書からはどれほど多くのことを読み取ることができるかということに気づかせることだったのです。

例えば、ニーファイは「これまでの人生で多くの苦難に遭った」と言っていますが、その直後で、まったくこの記述と反するような「主の厚い恵みを受け[た]」と言っています(1ニーファイ1:1)。わたしはなぜニーファイがそのような言ったのか、質問します。子供たちは、話し合いの中から、主がニーファイを^{かんなん}艱難の中から救い出される時には、ニーファイが神の奥義についてさらに深く理解できるようにして下さったことに気づきます(1ニーファイ1:1,20参照)。

子供たちや青少年が自分で真理を発見できるように助けるならば、彼らは最もよく学ぶことができます。そのような状態になれば、彼らは生涯を通じてモルモン書を愛し、活用し、心に深く感じ、またほかの人も同じような思いになれるよう、助けたいと思うようになるものなのです。

わたしたちの子供たちは、モルモン書は現実に生きた人々の生きた物語だとわたしたちが知っているのだと、分かるようになりました。子供たちも、わたしたちがモルモン書について分かっていることを分かり、知っていることを知り、感じていることを感じるようになったのです。このことで子供たちの証は強められ、モルモン書を愛するようになり、自分自身の子供たちに対しても同じように努めたいと思うようになったのです。■



モルモン書の中から 答えを見つける

サラ・D・スミス

この地上での旅路はチャレンジに満ちています。しかし、わたしたちの愛する天の御父は、わたしたちを地上に送るに当たって、人生の嵐に独りで直面させるようなことはなさいませんでした。天の御父が与えてくださった最大の助けの一つがモルモン書です。モルモン書は、完全な福音を教えているだけでなく、わたしたちの遭遇する問題を通じて導きを与えてくれます。モルモン書を研究するとき、わたしたちは御霊の助けによって、問題や疑問に対する答えを見つけ出すことができるのです。

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は、次のように証しています。

「現実の人生で直面する様々な問題に対して、これほど示唆に富んだ書物は、わたしの知るかぎりモルモン書以外にありません。……

モルモン書を通して、現実の問題に苦しんでいる人々の生活に幾度平安がもたらされたことでしょうか。モルモン書からもたらされる霊的な導きの例は、枚挙にいとまがないほどです。」¹

次の記事の中では、会員たちがどのようにしてモルモン書の中から自分の求める答えを見つけ出したか証しています。

心の変化を経験する

合衆国カリフォルニア州のグレッグ・ラーセン(仮名)は、若いころに福音を学んだのですが、やがて教えから離れていきます。麻薬とかかわり、犯罪を犯し、ついに刑務所行きになってしまったのです。彼は自分の生活を変えたいとは思いましたが、どうしたらよいのか確信が持てませんでした。

グレッグはこう書いています。「地元ワードの人たちが、刑務所に日曜学校を教えに来ていました。そのうちの一人が、モルモン書を

読めばわたしの生活は変わるというのです。それで、その言葉に従ってみました。

わたしは出所すると、教会に戻りました。しかし、まだ心の中には、また昔の習慣に戻りたいという強い願望があったのです。わたしがモルモン書を読み続けていると、アルマ書第19章33節にあるラモーナイ王の民の話に出会いました。「彼らは皆すでにその心が改まっており、もう二度と悪を行いたいとは思わなかった」とあります。わたしも、心にこの変化を求めて祈り始めました。

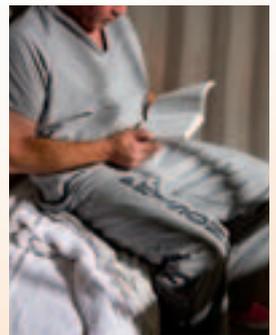
グレッグは、ヒラマン書第15章7節に祈りの答えを見つけました。「その信仰と悔い改めが彼らに心の変化をもたらしている」とあったのです。

「この言葉を読んだとき、わたしの頬を涙が伝いました。天の御父がわたしを愛してくださり、助けてくださることを、御霊が証してくださったのです。わたしは、自分にビショップに話をするだけの信仰があれば、それで十分だと感じました。わたしは自分の罪を救い主の足もとに置き、ほんとうの意味での心の変化がもたらされたのです。

道を見つける

合衆国アイダホ州出身のローラ・スウェンソンは、ある日、どうしても気持ちが抑えられないまま帰宅し、涙を流しました。彼女はまだ結婚していませんでした。それに、長年夢見てきた大学や仕事の計画も、崩壊寸前だったのです。「自分がどこへ進もうとしているのか、まったく分からなくなりました」と彼女は書いています。

「わたしは何か促されて、モルモン書を開きました。ニーファイ第一書第18章の最初の4節の中で、わたしは自分の心配していることに対する答えを見つけたのです。ここの聖句は、ニーファイが家族を約束の地へ連れて



「わたしはアルマ書第19章33節にあるラモーナイ王の民の話に出会いました。『彼らは皆すでにその心が改まっており、もう二度と悪を行いたいとは思わなかった』とあります。わたしも、心にこの変化を求めて祈り始めました。」



個人の問題での助け

「[モルモン書は] 個人の問題について非常に現実的な方法で助けを与えます。悪い習慣を克服したいと思いませんか。家族の関係を改善したいと思いませんか。自分の霊性を高めたくありませんか。モルモン書を読んでください。」

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老
「モルモン書の証」『リアホナ』2000年1月号, 84

行くために船を建造する場面が書かれているところです。この船は『入念な造り』ではありませんでしたが、『人の方法』で造ったものではありませんでした。『主が……見せてくださった方法で』造ったのです(1-2節)。ニーファイは、船を造っている間に何度も主に相談しました。船が完成したとき、『その出来栄の良いのと、その造りが非常に見事なの』が分かった、と書かれています(4節)。

わたしは自分自身の旅路が『入念な造り』であることは承知していました。それが人の方法に添わなくとも、わたしが主の導きを求めさえすれば自分にとって必要な所に導かれるのです。この聖句は、暗闇の中の灯台の光になりました。わたしの抱える問題は一朝一夕に解消するわけではありません。しかし、必要な展望は開けてきました。わたしは今、これまで決して就こうとは考えてもいなかった、やりがいのある仕事に就いています。」

もう一つの証を見つける

ホンジュラスのエイドリアン・パズ・ザンブラーノは、若いころ、なぜ聖書にはエルサレム周辺のことしか書かれていないのか、またイエス・キリストはほかの国を訪れていないのか、疑問に思っていました。

「何年か経ち、末日聖徒イエス・キリスト教会の二人の宣教師がわたしの家を訪ねて来ました。」 エイドリアンはこう続けています。「二人はわたしにモルモン書を紹介し、第三ニーファイを読むように勧めました。そこにはキリストがアメリカ大陸を訪れられたことが書かれていると言うのです。

読み進めるうちに、若いころに抱いた疑問

がよみがえってきました。わたしはその答えを見いだしたのです。モルモン書のおかげで、わたしはイエス・キリストが復活後、アメリカ大陸を訪れられたことを知りました。わたしは、神がその子供たちを場所や環境に関係なく、すべて愛しておられることを知って、喜びで満たされました。」

エイドリアンは妻と一緒に、教会が真実かどうか知りたいと祈りました。そして、二人とも証を受けたのです。二人はバプテスマと確認の儀式を受けました。そして1年後、この家族は神殿で結び固められたのです。

家族のために道を備える

合衆国ニューメキシコ州のエリック・ジェームズは、30歳のとき、腎臓病と診断されました。若い父親だった彼は、家族をどう扶養したらよいのか途方に暮れ、悩みました。

そんなとき、モルモン書を読んだ彼は、ニーファイも同じような悩みを持っていたことを知りました。純良なる鋼でできた弓を折ってしまったときのことです。しかし、木で弓を作ったからのニーファイは、再び家族を養うことができるようになったのです。(1ニーファイ16:18-23, 30-32参照)

エリックはこう書いています。「ニーファイの物語を読んで、わたしの心は明るい光で満たされました。あの時点までわたしが享受してきた健康というものは、ニーファイの鋼の弓のようなものでした。自分の健康が損なわれたとき、それは弓が折れたときのようなものです。しかし、わたしは、腎移植という方法で主がわたしに木の弓を祝福として賜ったことに気づいたのです。腎移植によって、わたしは自分の家族を養えるだけの強さが与えられることになります。これはわたしには希望でした。そして、ほぼ10年経過した今、わたしは今でも家族を養い、最善を尽くして主に仕え続けているのです。」

子供たちに従順を教える

アルゼンチンのファン・ホセ・レサノビッチは、子供たちがまだ幼いころ、子供をどう教えるか、疑問がわく度に、モルモン書をひもといていました。「妻もわたしも子供た

ちを育てるために靈感を求めてはモルモン書のページをめくっていました。そして、いつもその答えを見つけていたのです。」彼はそう書いています。

レサノビッチ家族は、ニーファイ第一書第3章5節から6節にあるニーファイの例を引用しては、子供たちに従順になるよう教えていました。

「ところで、あなたの兄たちは、わたしの求めていることが難しいと言って、つぶやいている。しかし、わたしが彼らにそれを求めたのでは決してない。それは主の命令なのだ。

だからわが子よ、行きなさい。あなたはつぶやくことがなかったので、主から恵みを受けるであろう。」

「わたしたちは子供たちに、ニーファイは地上の両親にも神のことに敬意を表していたと教えました。」ファンはそう書いています。「わたしたちは、家族としてニーファイのような尊敬と従順に満ちた態度を執るという目標を立てたのです。

わたしたちの子供たちは皆、伝道に出ました。わたしたちは、子供たちに伝道に出よう勧める必要もありませんでした。子供たちは皆、立派な生徒であり、善良な友人であり、良い子たちでした。わたしたち家族にはまだまだ改善の余地があります。しかし、モルモン書は、目標に到達しようとするわたしたちには、とても大きな助けになっているのです。」

依存症の縄から解き放たれる

合衆国ユタ州のスーザン・ラントは、過食症と戦っているとき、助けを求めて祈りました。彼女はモルモン書を開くと、兄たちから手足を固く縛られたニーファイがその縄から救い出された話を読みました。

「『おお、主よ、あなたを信じるわたしの信仰により、……救い出してください。まことに、わたしを縛っているこの縄を断ち切る力をお与えください。』

そして、……縄がすぐに……解けた……。」(1ニーファイ7:17-18)

「この聖句はわたしの気持ちをぴったりと表していました。わたしは過食症という縄に縛られていたのです。」スーザンはさらにこう

書いています。「ニーファイの現実の縄は、解き放たれたいと願ったときに直ちに解けました。わたしの縄の方はとらえどころのないもので、わたしは一瞬のうちに依存症を克服したわけではありません。しかし、これらの言葉を読むうちに、自分の中で何かが変わっているのを感じました。わたしは、何か自分の心や思いや肉体を縛っている縄から解き放たれていくのを感じました。わたしは自分が依存症を克服できると知ったのです。」

スーザンは、それ以来大きく成長を続けています。モルモン書の中から見いだした靈感によって、彼女は自分を縛っていたほかの習慣、例えば怒りや利己心や高慢といったものからも解き放たれることができたのです。彼女はこう説明しています。「わたしはモルモン書が神の言葉であることを知っています。人生でどんな疑問を抱いたとしても、その答えはあの書物の中で見つけることができるのです。」■

注

1.M・ラッセル・バラード「『私たちが証します』『聖徒の道』」1989年12月号、13

モルモン書の答えは

- この世では次にどんなことをしないといけないのでしょうか。(1ニーファイ4:6;アルマ37:36参照)
- 結婚生活をどのように改善したらよいのでしょうか。(1ニーファイ5:1-9参照)
- なぜ日記をつけるべきなのでしょう。(ヤコブ1:2-4;アルマ37:2-4;ヒラマン3:13-15参照)
- どうすればもっと良い友達になれるのでしょうか。(アルマ15:18参照)
- 自分の召しをどうしたら完全に果たすことができるのでしょうか。(アルマ17:2-12参照)
- どんなことについて祈ったらよいのでしょうか。(アルマ34:17-27参照)
- 悔い改めたり、変わったりするために、贖罪しよくざいはどのような助けになるのでしょうか。(アルマ36章参照)
- だれかから心ない仕打ちをされたら、どのように反応したらよいのでしょうか。(アルマ60-62章参照)
- 世の悪からどのようにして自分の家族を守ったらよいのでしょうか。(ヒラマン5:12;モロナイ8:2-3参照)
- なぜ教会に出席しないといけないのでしょうか。(モロナイ6:5-9参照)

学習のための提案——自分の持つ疑問についてそのリストを作ります。祈りの気持ちで聖文を学習するときに、その答えを探し求めます。

慣れが原因で、
「しるし、すなわち天からの不思議に
次第に驚かなくなって」くる可能性があります。



世界の 不思議

を再発見し……

霊的無関心という 危険を避ける



写真 アダム・C・オルソン、撮影されたものを除く

シロ・ピヤビセンシオはペルーのクスコ地域でツアーガイドとして働いていますが、彼の記憶では、最初の3年間で、おおむね400組近くのツアー・グループを引率して、インカの有名な「失われた都市」マチュピチュを案内したことになります。しかしながら、何度訪問しても、様々な世界の不思議にリストアップされているこの遺跡は、彼にとってその不思議さを失ってはいません。

「いつも何か新しく学ぶことがあります」と彼は言います。観光客のグループを連れて何時間もかけてマチュピチュを案内することは、シロにとって特別なことではありません。しかしながら、分かってきたことは、その不思議さを感じなくなることも実に簡単なことだということです。彼の同僚の中にはツアー全体を45分で終わらせる人もいます。「興味を失ってしまったんです」と彼は言います。

チャスキワードの会員であり、ペルー・クスコ・インティライミステークの高等評議員でもあるシロは、同僚たちが関心を失っていく気持ちを理解することで、教会員が世界のもう一つの不思議にもっと関心を寄せら

れるようになる助けになると考えています。その不思議こそ、最も重要な不思議である、回復されたイエス・キリストの福音の「驚くべき業と不思議」(2ニーファイ25:17)なのです。

不思議と感じなくなることの危険性

1500年代後半にインカによって見捨てられ、スペインの征服者によって再発見されたこの隔絶された都市遺跡は、ペルーのアンデスの高地にあって、ほんの一握りの人々にしか知られていませんでした。しかし、20世紀の初頭、外部の世界の人々によってこの遺跡が発見されると、研究者や旅行者が続々とやって来たのです。

数十年にわたって研究をしていくと、「中には、マチュピチュで見つけられるものはことごとく見つけたと考える人が出てきます。」シロは言います。「あらゆるものを見つけたとか、あらゆることをし尽くしたと考える人は、大事な部分を見失い、努力をやめるのです。」

シロは、同じような自己満足の思いが教会でも起きる可能性があることを心配しています。彼はこれまで、時間や慣れといったものが原因で、教会員の中にも次のような人が出てくるの



研究者たちは、マチュピチュの研究を続けるかぎり、新しい発見や新たな知識によって報いを受けてきたのです。

を見てきました。「しるし、すなわち天からの不思議に次第に驚かなくなってきた。そして、彼らの心はかたくなになり、思いはくらみ、彼らはかつて見聞きしたすべてのことを信じなくなった。」(3 ニーフай 2:1)

このように不思議に対する関心を失っていくと、会員はサタンのおそに対して影響されやすくなります。例えばこんなうそです。「あの話者の話は聞く必要がない。もう知っている内容だから。」「日曜学校には行く必要はない、あのレッスンは前に聞いているから。」「毎日聖文を勉強する必要はない、別に新しいことなどないのだから。」

「このようにしてサタンは民の心を支配〔する〕のです(3 ニーフай 2:2)。

福音を学ぶときにその意欲の面で、山や谷を経験することは、決して珍しいことではありません。しかし、霊的な学びのときに、経験した谷が生活習慣になるまでほうっておく人々は、危険にさらされることになります。霊的なことを理解しなければならぬときに「彼らが持っているものさえも」失ってしまうからです(2 ニーフай 28:30; マタイ 25:14-30 も参照)。

不思議の明かりを再点火する

以下の3つの真理を理解することで、シロは、たとえ無関心が忍び寄って来ても、いつも素直に教えを受け入れることができました。

1. わたしの知るべきことがもっとたくさん存在する。

伝道中に熱心に福音の研究をしているときも、インスティテュートの教師として働いているときも、シロは、いつももっと学ぶことがあると気づいてきました。それが、新しい原則であれ、すでに知っている原則の新しい応用であれ、同じです。さらに、もっと大切なことは、その新しい霊的な知識というものが、多くの場合、現実に直面している、あるいは、これから直面するチャレンジに立ち向かうために知る必要のあることだった、ということなのです。

彼はこう言います。「教えを受け入れやすい資質とは、ある意味では、今知らなくとも恐らく知っておく必要があるものが常に存在しているということをお忘れなき気持ちです。」

2. 必要なことを学ぶために、わたしには聖霊の助けが必要です。

自分が何を必要とするのか分からない場合には、知識豊かな教師が必要です(ヨハネ 14:26 参照)。シロは独りで聖文を研究するときも、妻と一緒にいるときも、あるいは、クラスや集会に参加するときも、自分がこれまで何回その聖句を読んできたか、何回その考え方を聞いてきたかは問題ではないと、いつも自分に言い聞かせています。

彼は言います。「御霊が、自分では決して考えていなかったことを教えてください。聖霊は教師ですから。」

3. 学ぶためには、自分の側でも努力が必要になる。

学びとは主体的に行うものであって、決して受け身の行為ではありません。¹ 学ぶためには、望み、集中し、参加し、学んだ原則を応用することが求められます(アルマ 32:27 参照)。

シロは言います。「わたしは学ぶという責任を引き受ける必要があります。天父はわたしを強制的に学ばせるようなことはなさらないからです。」

不思議は報いられる

シロにとって、マチュピチュはいつまでも世界的不思議の一つです。それは、研究者たちが研究を続けるかぎり、新しい発見と新しく加わった知識とで研究に対する報いを受け続けるからです。

1世紀にわたって研究してきても、考古学者たちが、埋葬地や陶器、そして新しくテラス状の建造物を発見したのは、ほんのここ数年のことです。こうした発見は皆、マチュピチュやインカについてこれまで知られてきたことに新たに追加されたことなのです。

イエス・キリストの福音を研究する際にも同じことが言えます。「努力をする者には、いつも福音の中に新しい発見があるものです」と、シロは言います。

マチュピチュで行われる新しい発見は、それまで獲得していた知識に基づいて行われ、研究者たちにより、さらに完全な知識をもたらしています。ちょうどそれと同じように、「心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられて、ついに神の奥義が十分に分かるようになるまで、奥義を知ることが許される」のです(アルマ12:10。教義と聖約50:24も参照)。

「福音は尽きることのない生ける水の源泉です。わたしたちはそこへ定期的に戻って行く必要があります。」シロはそう語ります。

不思議な驚くべき業

シロがマチュピチュを見下ろす高い岩棚から眺めていると、次から次へと数多くの観光客のグループが古代都市の中を歩いています。シロにとって、彼の同僚の中に関心を失った者がいるという悲劇は、その人たちが自身に不利益をもたらすだけでなく、そうした人々を通じて不思議を体験できるはずの人たちにとっても悲劇なのです。

福音の不思議を生き生きと感じ続けることで、その人自身に祝福がもたらされるだけでなく、その人と交わる人々にも祝福がもたらされます。シロ

はこう言っています。「福音が人々の生活の中にもたらす変化こそ、不思議なのです。」そして、その変化を経験した人々は、彼ら自身もまたほかの人々の生活にとって不思議と なっていくのです。■



注

1. デビッド・A・ベドナー
「信仰によって
学ぶ望みを持つ」
『リアホナ』2007年9月号、
17参照



聖文を読む意欲を持つ

ウィルファー・モンテス・レオン

わ たしたちは聖文を読む意欲を持てるように、また聖なる御霊の導きを得られるように祈る必要があります。聖文を喜びとすることがあります。すなわち、神の言葉を楽しみ、聖文が伝えるメッセージに込められている愛を感じる必要があります。目の前にある文字だけを追わないようにしましょう。聖文を読む目的はこのすばらしい福音に対する愛を深めることだからです。

聖文を調べるようにすると、その都度さらに多くのことを学べるでしょう。聖文によって、天の御父の御心みこころが分かるようになります。御父は教会の標準聖典を通してしばしば祈りにこたえてくださいます。平安を感じ、心を鼓舞する考えが浮かぶとき、それが聖霊を通して天の御父から来ていることが分かります(教義と聖約8:1-3参照)。





十二使徒定員会
D・トッド・
クリストファーソン長老

日々の祝福に 神の手を 認める

日ごとの食物を神に求め、神の手から頂くことは、
神を信頼し、人生の困難に耐えるうえで大切な役割を果たします。

ルカによる福音書には、弟子の一人がイエスに次のように願ったことが記されています。「主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください。」(ルカ 11:1)。イエスはその後、祈りの手本を示されました。それは「主の祈り」として知られています(ルカ 11:2-4 参照。マタイ 6:9-13 も参照)。

主の祈りの中には「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください」という願いがあります(マタイ 6:11。ルカ 11:3 も参照)。どのような日でも、わたしたちには必要なことがあります。それを得るために天の御父の助けを望んでいます。中には文字どおりの食物、すなわちその日を生き抜くための食物を必要としている人がいるかもしれません。慢性の病気や長期のつらいリハビリにもう1日耐えるための霊の強さや体力を求める人もいます。その日の責任や活動に関することなど、形として見えない必要を抱えている人もいます。例

えば、レッスンを教えることや試験を受けることがこれに相当します。

イエスは、弟子であるわたしたちに、その日に必要な食物、すなわち助けや支えを得られるよう神に頼るべきであると教えておられます。日ごとの食物を天の御父に願い求めなさいという主の勧めから、神が愛にあふれた御方であられることが分かります。神は御自身の子供たちの日常的な小さな必要までも気遣い、一人一人を助けたいと願っておられます。主は、「とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える」御方に信仰をもって尋ね求めれば「与えられるであろう」と述べておられます(ヤコブの手紙 1:5)。大いなる安心を与えてくれる言葉ですが、この教えにはある原則があります。それは一日一日を何とか過ごすための助け以上のものです。神に日ごとの食物を求め、頂くことで、神と御子に対するわたしたちの信仰と信頼が強まるのです。

日々神を仰ぎ見る

イスラエルの部族は、エジプトから逃れて約束の地に入るまで、荒れ野で40年過ごしました。100万人をはるかに超えるこの大群衆は食物を得る必要がありました。一か所にこれほど大勢の人がいるのですから、狩りで獸をとるだけでは足りませんし、常に移住を伴う生活のため十分な量の農作物や家畜を育てるわけにもいきません。エホバは天から日ごとの食物を、すなわちマナを与えるという奇跡によって問題を解決されました。主はモーセを通して民に、その日に必要な分だけを集めるように命じられました。ただし、安息日の前日は2日分集めることになっていました。

モーセがはっきりと指示したにもかかわらず、1日分以上集めて余りを蓄えようとした人々がいました。

「モーセは彼らに言った、『だれも朝までそれを残しておいてはならない。』」

しかし彼らはモーセに聞き従わないで、ある者は朝までそれを残しておいたが、虫がついて臭くなった。(出エジプト16:19-20)

しかし、約束どおり6日目に普段の2倍の量のマナを集めたとき、それは腐りませんでした(出エジプト16:24-26参照)。しかし、目で見ても確かめなければ信じられない人々は、再び安息日にマナを集めに行きました。しかし見つかりませんでした(出エジプト16:27-29参照)。

エホバは1日分の食べ物を日ごとに与えることにより、約400年の時の流れの中で先祖の信仰をほとんど失いかけていた国民に、信仰について教えようとされていました。主を信頼するよう教えておられたのです。つまり、イスラエルの民は一日を主とともに歩み、翌日分の食べ物は主が翌日に用意してくださると信頼しなければならなかったということです。

このようにして、主は民の思いと心が主から遠く離れないようにされたのです。

イスラエルの部族は自力で食糧を用意できるようになると、自分で食物を得なければならなくなりました。同様に、わたしたちも、自分で得られない日ごとの食物、すなわちそのときの助けを神に求めますが、自分の力の及ぶ範囲にあることを積極的に行って得るようにしなければなりません。

主を信頼する

わたしは中央幹部に召される少し前、数年の間、経済的な試練に直面しました。深刻で一刻の猶予もないというときもあれば、多少状況が改善されるときもありました。しかし完全に解決することはありませんでした。わたしと家族の生活が脅かされることもあり、破産の文字が頭に浮かんだときもありました。奇跡的な助けにより問題から解放されるよう祈りました。そのように誠心誠意、熱心に繰り返し祈りましたが、最終的な返事は「いいえ」でした。結局、わたしは救い主のように「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と祈ることを学びました(ルカ22:42)。わたしは主の助けを求めながら、最終的な解決までの小さな一步一步を進んで行ったのです。

あらゆる手を使い果たし、頼れる場所もないまま目の前の緊急事態に対処しなければならぬときもありました。天の御父以外に頼れるものは何もなく、神の前にひれ伏し、涙ながらに助けを懇願したことが何度もありました。すると御父はほんとうに助けてくださいました。ただ平安な気持ち、必ず何とかなるという確信だけを感じるときもありました。どの道を進むべきか、どのように進んで行くのかが自分ではよく分からなくても、直接または間接的に主が道を開いてくださるということを主は教えてくださいました。状況が変わったり、これまでにない役立つ考えが浮かんだり、思わぬ収入やその他の手段にタイミン

イエスは、
弟子であるわたしたちに、
その日に必要な食物、
すなわち
助けや支えを
得られるよう
神に頼るべきであると
教えておられます。

グよく恵まれたりしました。何とか解決策を見いだすことができました。

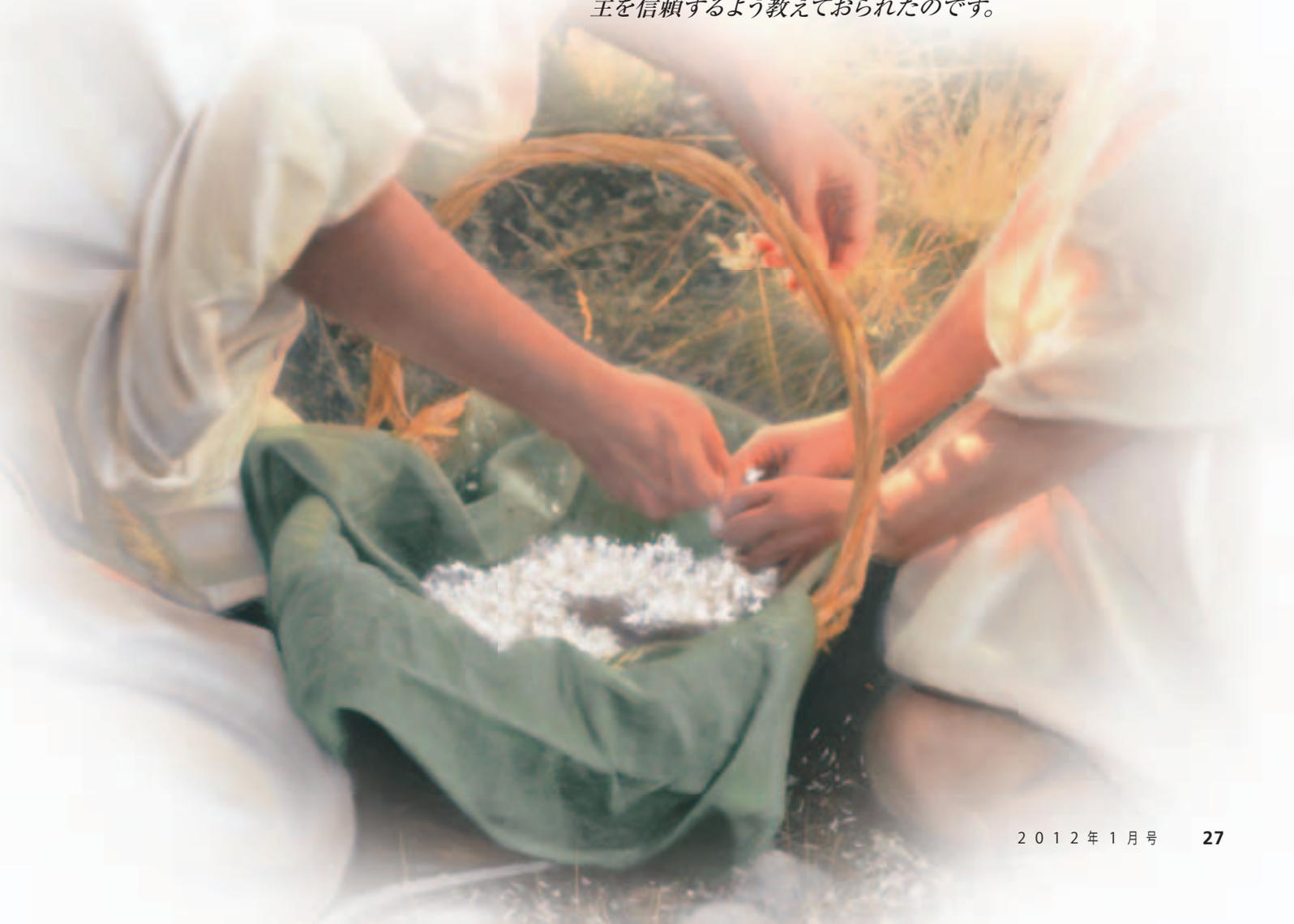
当時は苦しい思いをしましたが、今振り返ると、問題が即座に解決されなかったことに感謝しています。何年もの間、ほとんど毎日神に助けを求めざるを得なかったため、どのように祈り、答えを受けるべきかを確かに学び、神を信じることを非常に実践的な方法で学びました。ある点で救い主と天の御父を非常によく知るようになりました。そうでなければ知ることができなかったかもしれませんし、もっと長い時間がかかったかもしれません。わたしは日ごとの食物が貴重なものであることを学びました。聖書の時代の物質的なマナと同じように、現代のマナもあり得るということを知

りました。心の底から主を信頼するようになりました。毎日毎日主とともに歩むことを学んだのです。

問題に取り組む

1週間分、1か月分、あるいは1年分の食物ではなく、その日の食物を神に願い求めることは、もっと小さな、もっと対処しやすい問

*エホバは1日分の食べ物を日ごとに与えることにより、
約400年の時の流れの中で
先祖の信仰をほとんど失いかけていた国民に、
信仰について教えようとされていました。
主を信頼するよう教えておられたのです。*



題に焦点を当てる一つの方法でもあります。大きなことに対処するためには、小さな日々の事柄を行う必要があるかもしれません。時には一度に1日、あるいは1日のほんの一部であるということもあります。

1950年代に母は癌^{がん}のために大きな手術を受けました。その後、何十回も苦しい放射線治療を受けました。母はそのころ、自身の母親からあることを教わりました。その言葉がずっと支えとなってきたそうです。

「具合が悪く、すっかり弱っていたわたしは母にこう言ったの。『ねえ、お母さん、あと治療が16回もあるなんて、とても耐えられない。』」

母はこう言ったわ。『今日^{きょう}は頑張れる?』

『ええ。』

『今日は、そのことだけ考えればいいのよ。』

この言葉のおかげで、わたしは一度に1日だけ、あるいは一つのことだけをできるようになったのよ。」

先のことに目を向けるべきか、あるいは今日一日や今の一瞬^{みたま}だけを考えるべきかは御霊が教えてくれます。

自分の可能性を発揮する

日ごとの食物を神に求め、神の手から頂くことは、神を信頼し、人生の困難に耐えるうえで大切な役割を果たします。わたしたちは

わたしたちはまた、自分になるべき人物になるためにも

日ごとの神の食物を必要としています。

悔い改め、改善し、ついには

「キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」ことは、

1歩ずつ段階を踏んで進めるものです。



また、自分になるべき人物になるためにも日ごとの神の食物を必要としています。悔い改め、改善し、ついには「キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」(エペソ4:13)ことは、1歩ずつ段階を踏んで進めるものです。新しい、健全な習慣を身に付けたり、悪い習慣や依存症を克服したりするには、ほとんどの場合、今日努力して、明日も、その次の日も、あるいは何日も、何か月も、何年も、成功するまで努力を続けなければなりません。しかし、わたしたちはそれができます。日ごとの食物、すなわち毎日必要な助けを神にお願いすることができるからです。

かつて大管長会の第一顧問を務めたN・エルドン・タナー管長(1898-1982年)は次のように述べています。「より良い業を行おうと決心することの大切さについて思い巡らすとき、どのような決心をするのか慎重に考慮し、何のために決心するかを考え、最後に、どんな障害に遭っても心に決めたことを守り抜くという決意をする訓練をしましょう。一日の始めに、今日だけなら決心したことを守れると思うようにしましょう。」¹

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、先ごろ、家族の祈り、聖文研究、家庭の夕べなど、簡単なことを日々一貫して続けることが実りある家族を築くのに不可欠であると話しました。「一見取るに足りないことを一貫して行うことで、意義深い霊的な実が得られるのです。」²

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は、悔い改めについてこのように勧めました。「もっともっと〔キリストに似た者に〕なろうとすると、わたしたちは、落胆したり、希望を失ったりしないように気をつけなければなりません。キリストに似た者になるための努力は生涯を通して続けるべきものです。また成長や変化といっても、きわめてゆっくりとしたものであり、自覚できないことが非常に多いのです。」³

人々に仕えるとき、主の助けを求める

日ごとの神の食物を求めるとき、自分のことだけを考えないようにしてください。「仕えられるためではなく、仕えるため」に来られた主のようになるには(マルコ10:45)、主の助けを求めて日々ほかの人々に奉仕するようにならなければなりません。

トーマス・S・モンソン大管長はわたしの知っているだれよりもこの原則をよく実践しています。大管長はどの日でも、あるいは一日のどの瞬間でも、周囲の人々を助ける必要や方法があればそれを明らかにしてくださるよう心の中で神に祈り続けています。大管長がビショップを務めていたころの話から、ほんの少しの努力でも、御霊の働きと一つになって大きな実を結ぶことがあることが分かります。

「〔モンソン大管長が〕手を差し伸べた一人にハロルド・ギャラカー兄弟がいます。妻と子供たちは教会に活発でしたが、ハロルドはそうではありませんでした。娘のシャロンはモンソンビショップに、父親がまた活発になれるよう『何かして』もらえないか頼みました。モンソンビショップはある日、ハロルドを訪ねるべきだと感じました。暑い夏の日、彼はハロルドの家の玄関の網戸をノックしました。ハロルドがいすに座り、たばこを吸いながら新聞を読んでいるのが見えました。ハロルドはうつむいたまま不機嫌そうに答えました。『どちら様ですか。』

モンソンビショップは答えました。『ビショップです。お近づきになって、ご家族と一緒に集会に出席してくださるようお勧めしようと思って来ました。』

『忙しいのでお断りします。』返答は冷ややかなものでした。ハロルドは一度も顔を上げませんでした。モンソンビショップは話を聞いてくれたことに感謝を述べて、立ち去りました。

「仕えられるためではなく、仕えるため」に来られた主のようになるには、主の助けを求めて日々ほかの人々に奉仕するようにならなければなりません。

た。ハロルドが一度も集会に出席しないまま、その家族は引っ越しました。

何年もたった後、……ギャラカー兄弟からトーマス・S・モンソン長老の執務室に面会を希望する電話がありました。

……その後、再会した二人は抱き合いました。ハロルドはこう言いました。『何年も前のあの夏の日、いすに座ったままあなたを中にお招きしなかったことをおわびするために参りました。』教会に活発かどうかモンソン長老は聞きました。ハロルドは苦笑いをしながら答えました。『今はワードのビショップリック第二顧問をしています。教会に来るよ

うにというあなたのお誘いと自分の否定的な返答が脳裏から離れなくて、何とかしなければと思ったのです。』⁴

日々の選択をする

日ごとの食物について考えると、いつも人生の細々とした事柄、日々にかかる小さなことの大切さに気づきます。例えば、夫婦の間では、たまに盛大に、お金をかけて何かをするよりも、ちょっとした親切な行い、助け、気遣いを示し続ける方が互いの愛を維持し、夫婦関係を強めるうえではるかに効果的であることが分かっています。

「わたしは天から下ってきた生きたパンである。
それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。
わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」



同様に、日々の選択によって、悪い影響を避けて、それがわたしたちの生活に入っていないように、またわたしたちの人格の一部とならないようにすることができます。何年も前、ニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）との個人的な会話の中で、わたしたちは、良い選択をしていればほとんどのポルノグラフィやポルノグラフィに類する画像を避けられるという話をしました。物理的にも、インターネット上でも、ほとんどの場合、問題はポルノグラフィが潜む場所に近づかないという自制心があるかどうかなのです。しかし、悲しいことにポルノグラフィがあまりに蔓延しているため、自分だけ相当に気をつけても不意に遭遇してしまうことがあるという話にもなりました。マックスウェル長老はこう語りました。「そうですね。でも、そのようなときは即座に拒絶すればよいのです。心の中に招き入れ、いすを勧める必要はありません。」

ほかの悪い影響や習慣に関しても同じで、毎日気をつけて、そのようなものを兆しの段階で避けるようにすると、わたしたちは守られ、将来、不注意が原因で悪事や弱さがいつの間にか心にしっかり根付いていたという状況になることはないでしょう。

実際のところ、一日の中で意味のない事柄というのはあまり多くありません。繰り返し行う平凡な事柄でさえ、ささいなように見えても、やがては自分の計画や夢を実現するために必要な規律と人格と秩序を形作る基礎となります。ですから、日ごとの食物を祈り求めるときは、不足しているものと自分に近寄せたくないものの両方の必要についてよく考えてください。寝る前に、その日に成功したことと失敗したことについて、また翌日をより良い日にするにはどうしたらよいかについて考えてください。あなたを一日中支えるために天の御父があなたの道に備えてくださったマナについて御父に感謝してください。一日を振り返ると、あなたが御父の助けを受けて何かに耐え

たり、他の事柄を変えたりしたことに気づき、御父への信仰が強まるでしょう。永遠の命に向かうもう一日、もう一步を楽しむことができますでしょう。

命のパンを心に留める

何よりも、マナが示し、象徴する御方、贖い主がわたしたちとともにおられることを覚えてください。

「わたしは命のパンである。

あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。

しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。

わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」（ヨハネ 6：48 - 51）

命のパンであるイエス・キリストが生きておられること、そしてキリストの贖罪は無限の力があり無限の領域に及ぶことを証します。結局のところ、主の贖罪、主の恵みこそがわたしたちの日ごとの食物なのです。主の御心を行い、主が御父と一つであられるようにわたしたちも主と一つになるために（ヨハネ 17：20 - 23 参照）、毎日主を求めなければなりません。わたしたちがそうするとき、天の御父が日ごとの食物を与えてくださいますように。■

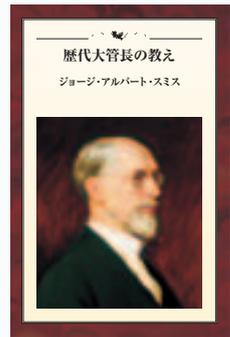
注

1. N・エルドン・タナー「今日という日に」『リアホナ』2003年3月号, 27 - 28
2. デビッド・A・ベドナー「家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わる」『リアホナ』2009年11月号, 19
3. エズラ・タフト・ベンソン「大いなる改心」『聖徒の道』1990年3月号, 7 参照
4. ハイディ・S・スウィントン, *To the Rescue: The Biography of Thomas S. Monson* (2010年), 160 - 161

結局のところ、
主の贖罪、
主の恵みこそが
わたしたちの
日ごとの食物なのです。



ジョージ・アルバート・スミス



自分が教えたとおりに生活した人物

ジョージ・アルバート・スミス大管長の生涯における出来事は、スミス大管長が福音を信じていただけでなく、福音に従って生活していたことを示しています。

教科課程部
テッド・バーンズ

緊張に満ちた一日が
終わろうとしていた
とき、ジョン・A・ウ
イツォー長老は「[その日の仕
事で] かなり疲れて」オフィスに
座っていました。議論を呼んでい
る問題に直面し、責任の重さを感じ
ていました。「疲れ果ててい[まし
た]」とウイツォー長老は述べています。
「ちょうどそのとき、ドアをノックする音
があり、ジョージ・アルバート・スミスが
入って来て、こう言いました。『仕事が終わ
って帰宅する途中なのだけれど、あなた
とあなたが解決しなければならない問題
のことを考えてね。慰めと祝福を差し上
げたいと思って来たのだよ。』

……わたしは決して忘れないでしょう。
わたしたちはしばらく話し合いました。それ
からさよならと言うと、帰って行きました。
わたしの気持ちは奮い立ちました。もはや
疲れは感じませんでした。」

何年も後に十二使徒定員会の会員として、
ウイツォー長老(1872-1952年)はこの
経験を回想して次のように述べています。
「ジョージ・アルバート・スミスはそんな

人でした。……自分の時間と力を
……与えてくれたのです。」¹

1945年から1951年まで教会の第
8代大管長を務めたジョージ・アル
バート・スミス(1870-1951年)
は、もしわたしたちがイエス・キリスト
の福音にほんとうに証^{あかし}を持っているな
らば、それが生活に、特に互いの接
し方に表れるようになると信じてい
ました。スミス大管長は次のように
教えています。「正しく、矛盾のない
生活……こそが、この業の真実性をわたし
たちが証明できる最も力強い証なのです。」²
2012年のメルキゼデク神権と扶助協会の
教科課程である『歴代大管長の教え——
ジョージ・アルバート・スミス』には、スミス
大管長の教えとその生涯の物語を通して、
大管長の証が力強く表れています。それ
らの物語や教えから、例を幾つか紹介し
ましょう。

思いやりの力

ある暑い夏の日、スミス大管長の家の外で
数人の作業員が道路を補修していました。
作業が難しさを増し、日差しも強まるにつれ
て、作業員たちはみだらで不敬な言葉を
口にし始めました。やがて近所の人が



近寄って行き、不快な言葉遣いをたしなめて、すぐ近くにジョージ・アルバート・スミスが住んでいることを告げました。しかし作業員たちは何とも思わず、さらにひどく悪態をつき始めました。

その一方で、スミス大管長は自宅の台所で水差しにレモネードを作っていました。コップと一緒に盆に載せて外に持って行き、作業員たちに言いました。「皆さん、暑いし、お疲れでしょう。うちの木陰に来て、冷たい飲み物でもいかがですか。」

作業員たちは恐縮し、感謝しながらその言葉に甘えました。そしてもてなしを受けて休憩した後、礼儀正しい態度で静かに仕事を終えました。³

こうした出来事には、わたしたちは「あらゆる人に愛と思いやりの精神をもって、問題に立ち向かう」ことができるというジョージ・アルバート・スミスの信念が表れています。⁴ スミス大管長は次のように述べています。「過ちを犯す人々があります。今、わたしたちの間から迷い出ている人々もいます。けれども彼らは主の子供であって、主は彼らを愛しておられます。思いやりと愛をもって、忍耐と、祝福を与えたいという望みをもって、彼らのもとへ行き、彼らが犯している過ちを克服できるように尽力する権利を主は皆さんとわたしにお与えになっています。……人を裁く権利はわたしにありません。けれども、何かの悪い行いをしているのを見たら、可能であれば何とかして、日の栄えの王国における永遠の命に導く道へ彼らを連れ戻す特権はわたしにあります。」⁵

「思いやりによってどれほど大きな喜び、慰め、満足が隣人や友人の生活にもたらされることでしょうか。この言葉を太字で書いて、空高く掲げたいほどです。思いやりは、閉ざした心の錠を開け、かたくなな心を和らげて、神の御心みこころを彼らに理解させるために、神がわたしたちに下さった力です。」⁶

福音を分かち合う

スミス大管長は、福音を分かち合うことを「究極の思いやり」であると考えていました。⁷ ほかの教会に見られる良いものを認め、そうしたものに喜びを感じながらも、回復された福音には人類に差し出すべき比類のない貴重なものがあ

ることを知っていました。

伝道部会長として奉仕していたあるとき、ある人がスミス大管長に言いました。「わたしが見るところ、あなたの教会はほかのどの教会にも劣らないようですね。」

スミス大管長はこう述べています。「その人は大いに褒めたつもりでしたが、わたしはこう言いました。『わたしが代表している教会が、人の子らにとってほかのどの教会よりも重要でないとしたら、わたしがここで務めを果たすのは間違いです。』」⁸

わたしたちのメッセージが非常に重要である理由の一つについて、スミス大管長は次のように教えています。「福音の儀式を執行するよう天の御父の権能を受けているのは末日聖徒だけです。世はわたしたちを必要としているのです。」⁹

そのため、スミス大管長は末日聖徒に、「御父がわたしたちに豊かに授けてくださった良いものを御父のすべての子らと分かち合いたいと、強く熱心に」願ってほしいと思っていました。¹⁰

スミス大管長は次のように述べています。「わたしたちは〔福音〕の大切さを十分に感じておらず、求められる十分な熱心さをもって教えていないのではないかと感じるのが時々あります。」¹¹

ある親しい友人は、「熱心」に福音を分かち合うことに関してスミス大管長が示した模範について、次のように述べています。「何度かスミス大管長と列車で旅する機会に恵まれました。毎回、列車が動き出すや否や、大管長はかばんから福音のちらしを取り出してポケットに入れると、乗客の中を歩き始めました。親しみやすく、愛想の良い物腰ですぐに一人の乗客と親しくなり、じきにこの新しい友人に預言者ジョセフ・スミスによる教会の設立の物語や、聖徒たちがノーブーを逃れ大平原を横断してユタにたどり着くまでに経験した試練や困難、あるいは福音の原則について説明するのでした。旅が終わるまでずっと、次々と乗客に話しかけては説明し続けるのです。40年以上にわたって、スミス大管長と親しくしてきて分かったのですが、彼はどこにいても、何よりもまず末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であり続けました。」¹²

子供たちを教える

ジョージ・アルバート・スミスと妻のルーシーは、「子供たちを光と真理の中で育てるように」という神の命令を真剣に受け止めていました(教義と聖約 93:40)。娘のエディスは、父親が教える機会を生かしてくれたある出来事について語っています。エディスがピアノのレッスンの帰りに路面電車に乗った際、車掌は彼女の運賃を徴収しませんでした。エディスは次のように述べています。「どういうわけか車掌はわたしの前を通り過ぎ、わたしは小銭を握ったまま目的地に着いて、正直に言うと、無料で乗車できたことですっかり得意になっていました。

……わたしは上機嫌で父のところに駆けて行き、幸運な出来事について話しました。父はわたしの話に忍耐強く耳を傾けてくれました。わたしは、自分は大成功を取めたのだと思い始めていました。……

わたしが話し終えると、父が言いました。『でも、たとえ車掌がこのことについて知らないとしても、エディスは知っているわけだし、わたしも知っているし、天のお父様も御存じだ。だから、エディスが自分の受けたものに対して全額を支払うのを見て満足しなければならない人が、まだ3人いるわけだね。』

エディスは街角に戻って行き、運賃を支払いました。後にこう言っています。「優しく間違いを指摘してくれた賢明な父親に感謝しています。もし見過ごしにされていたなら、父が認めてくれたのだと思って……いたかもしれないからです。」¹³

スミス大管長は、愛には義にかなった生活をするように子供たちを鼓舞する力があると教会員に教えました。「道徳の律法を守るように子供たちに教えてください。子供たちがあらゆる方面から彼らを取り囲んでいる悪の誘惑に手を出したいという望みを少しも持つことがないように、皆さんの愛の腕で子供たちを包んでください。」¹⁴

「安全な場所で子供たちと一緒にいる時間



メニー・ターコイズ(左)とマニュエリト・ビゲイにモルモン書を見せるスミス大管長。

を十分に取り、子供たちを愛し、また子供たちから愛を勝ち取って、彼らが忠告と助言に喜んで耳を傾けるようにするのはわたしたちの義務です。それはわたしたちの義務であると同時に特権でもあると言うべきでしょう。」¹⁵

永遠の家族

ジョージ・アルバート・スミスとルーシー・スミスが結婚して約40年たったころから、ルーシーは病弱になり、体調の思わしくない状態が長く続きました。スミス大管長はルーシーのことを心配し、できるかぎり元気づけようと努めました。中央幹部の務めのために家を離れなければならないことが度々ありました。ある日、葬儀で弔辞を述べ終えたスミス大管長に、直ちに帰宅するようにというメモが手渡されました。スミス大管長は後に日記に次のように記しています。

「すぐに集会所を出て家に向かったが、愛する妻はわたしの帰宅を待たず息を引き取った。わたしが葬儀で弔辞を述べている間に亡くなったのである。献身的な伴侶を失ってしまった。彼女のいない生活は寂しいものになるだろう。」

そして次のように続けています。「わたしたち家族は悲しみに暮れているが、忠実であり続ければ、妻にまた会えると確信しているので、慰められている。……主は思いやり深い

スミス大管長は、福音を分かち合うことを「究極の思いやり」であると考えていました。「福音の儀式を執行するよう天の御父の権能を受けているのは末日聖徒だけで〔あり〕、世はわたしたちを必要としている」からです。

御方で、死にまつわるあらゆる悲しい思いを取り去ってくださった。そのことに深く感謝している。」¹⁶

スミス大管長は救いの計画への証と、家族を永遠に結び固める神殿の儀式に対する証から強さと慰めを得ました。次のように教えています。

「この地上における両親と子供、夫と妻としての関係が天でも続き、現世は向こう側で必ず受け継ぐよう御父が定めておられる偉大で輝かしい王国の始まりにすぎないという保証があるからこそ、わたしたちの胸に希望と喜びがあふれるのです。

実に多くの人がそうであるように、もしわたしが、愛する妻や愛する両親が亡くなった今、彼らは永遠にわたしの人生から去ってしまい、彼らに二度と会えないと考えなければならぬとするならば、この地上で享受している最大の喜びの一つを奪い去られることとなります。いつの日か、彼らと再会し、彼らの歓迎と愛情を受け、彼らがわたしのためにしてくれたすべてのことに心の底から感謝することができると思巡らすことができなくなるのです。」¹⁷

「死は永遠を通じて神の子供たちがぜひと踏まなければならない段階の一つにすぎず、神の計画によって定められたものであるということをはっきりと理解すると、死のとげはなくなり、永遠の命という現実を直視することができます。これまでに多くの家族が召され、一時的ではありますが、愛する人々に別れを告げました。そのような別れがあったとき、その出来事だけに目を向ければ、心はかき乱され、わたしたちの生活に大きな悲しみが訪れます。しかし、わたしたちの霊的な目が開いて、見ることができるなら、未来への展望のゆえに、必ずや慰めを得ることができるでしょう。主はわたしたちを希望のないままにほうっておかれませんでした。それどころか、この現世にいる間に主の助言と勧告を受け入れることを条件として、わたしたちに永遠の幸福に関するあらゆる確信を与えてくださいました。

これはたわいのない夢などではありません。これらのことは事実です。」¹⁸

愛と奉仕

スミス大管長について恐らく最もよく知られていたのが、人々に示す愛でした。スミス大管長は愛こそ福音の真髄であると信じていました。聖徒たちに次のように



上——スミス大管長と
息子のジョージ・アルバート・スミス・ジュニア。
手前——スミス大管長と教会についての特集記事が
掲載された1947年発行の『タイム』(Time)誌。

言っています。「イエス・キリストの福音を伝えられたとしても、自分の同胞^{ほらから}に対するそのような愛の思いを福音が心に植え付けていないとしたら、皆さんに申し上げたいと思いますが、皆さんは、この教会が組織されたときに天より授かったそのすばらしい賜物^{たまもの}の実をまだ十分に味わっていないということになります。」¹⁹

教会の大管長として、スミス大管長は世界規模での福祉活動などの取り組みによって無数の人の生活に祝福をもたらしました。それでもなお、スミス大管長はもっと小さな、もっと個人的な奉仕を行う時間を見つけました。大管長の友人の一人である十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老（1906 - 1971年）は次のように書いています。「執務時間の前後に、病院の廊下を歩き、次々と病室を訪ねては、祝福し、励まし、予期せぬ訪問で元気づける、そのような大管長の姿を見るのは珍しいことではありません。大管長がいることで得られる慰めと安心感を、感謝をもって迎え入れる人々がそこにいるのです。……助け励ませると思う所ならどこへでも出かけて行く、それがこの人の性格なのです。」²⁰

トーマス・S・モンソン大管長は、スミス大管長の愛について次のような例を紹介しています。「冷え込んだある冬の朝、〔ソルトレーク・シティーの〕道路清掃班は、排水路から厚い氷の塊を取り除いていました。正規の職員と、職を求めて集まった臨時職員が一緒に働いていました。その中に薄いセーターだけを着て寒さに震える臨時職員が一人いました。そこへ、あごひげをきれいに整えたほっそりした男性が近寄って、その臨時職員に声をかけました。『こんな朝にセーターだけでは足りないでしょう。上着はどうしたんですか。』上着は持っていないと聞くと、男性は自分のコートを脱ぎ、手渡ししながらこう言ったのです。『これを差し上げましょう。厚手のウールだから暖かいですよ。わたしはこの道のすぐ向かいで働いていますから。』働いている場所は教会本部ビルの南側を走るサウステンプルスト

リートでした。コートを脱いだまま毎日の仕事をしに本部ビルの中へ姿を消した良いサマリヤ人は、末日聖徒イエス・キリスト教会のジョージ・アルバート・スミス大管長だったのです。その惜しみない無私^{むし}の行いには、大管長の優しい人柄^{ひとがら}がうかがえます。確かにスミス大管長は兄弟の守り手^{まもりて}でした。」²¹

日常生活のこまごまとした事柄

列車で同乗者に自分の信仰を紹介したり、道路で寒そうに働く作業員にコートを脱いで渡したり、ジョージ・アルバート・スミス大管長は教えを通してだけでなく、行いを通して絶えず証を述べました。『歴代大管長の教え——ジョージ・アルバート・スミス』を貫く際立ったテーマは、イエス・キリストの福音はわたしたちの生活にとっても大きな影響を及ぼすものだということです。

ある人はスミス大管長について次のように述べています。「彼の宗教は冷凍室に保存されているような教義ではありません。理屈ではないのです。彼にとって宗教とは称賛すべきみごとな計画以上のものを意味します。人生哲学以上のものです。彼のように現実を重んじる気性の人にとって、それは生きる心構えであり、行動する気概を意味します。たとえ親切な言葉を一言口にするだけ、あるいは冷たい水をコップ1杯上げるだけでもよいのです。彼の宗教は行動に表さなければなりません。日常生活のこまごまとした事柄に生かさなければなりません。」²²

大管長会でスミス大管長の顧問を務めたJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長（1871 - 1961年）は、スミス大管長の生涯を次のような言葉で要約しています。「彼は自分が教えたとおりに生活した数少ない人物の一人でした。」²³ ■

注

1. ジョン・A・ウィットォー、Conference Report, 1951年4月, 99. 『歴代大管長の教え——ジョージ・アルバート・スミス』 xxxvi - xxxvii も参照
2. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 8 - 9
3. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 223 参照
4. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 223
5. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 227
6. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 227 - 228
7. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 123
8. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 151
9. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 124
10. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 128
11. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 150
12. プレストン・ニブリー。『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 123 で引用
13. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 233 - 235 参照
14. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 240
15. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 228
16. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 xxvii 参照
17. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 83
18. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 76
19. 『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 14
20. リチャード・L・エバンズ。『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 11 - 13 で引用
21. トーマス・S・モンソン。『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 13 で引用
22. ブライアント・S・ヒンクレイ。『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 2 で引用
23. J・ルーベン・クラーク・ジュニア。『教え——ジョージ・アルバート・スミス』 3 で引用

バッテリーと 身を刺すような風

あるとき、神殿の奉仕が終わって
から、わたしは二人の兄弟をア
イダホフォールズの真南にある高速道
路まで送って行くことにしました。
二人はそこに車を置いてきていたの
です。凍えるように寒い12月のこと
です。ある親切な夫婦が車を止めて、
立ち往生しているトンプソン兄弟とク
ラーク兄弟を神殿まで送ってくれたの
でした。

車には新しいバッテリーが必要だ
ということがトンプソン兄弟には分かっ
ていました。彼を近くの車用品店に乗
せて行ってバッテリーを買い、わたしの
車には工具があったので、わたしが交
換することにしました。

幸いわたしは新しい手袋とダウン
ジャケットを持って来ていました。
ボンネットを開けると、だめになった
バッテリーを取り外して新しいものに
取り替える準備を始めました。

バッテリーを交換するためには、ウイ
ンドウォッシャー液のタンクなど、幾
つかのパーツを分解して動かさなけれ
ばなりません。わたしの工具は
メートル規格のネジには合わず、ビス
に至ってはびくともしないものまであり
ました。工具を替え、体勢を変えて
やってみましたが発展はありません。
戸外の気温はマイナス15度前後で、
ごう音を立てて通り過ぎるトレーラー
トラックが、身を刺すような突風を巻き
起こしていました。寒さといらだたし
さで、我慢は限界にきていました。

わたしは残された最後の手段に頼
ることにしました。困っていることを
天の御父に説明し、ねじとビスを緩め
てくださるか、そうでなければ緩める
方法が分かるように助けてください、
と熱意を込めて祈ったのです。祈り終

えると、ペンチを持ってもう一度固いビ
スをつかみました。すると、ビスはす
でに緩んでいたのです。わたしは心
中で熱い感謝の気持ちを述べながら
ビスを外し、作業を続けました。

それから間もなく、奥の方にどう
やっても動かないねじがあることが分
かりました。再び追い詰められたわた
しは、さらに熱意を込めて助けを祈り
求めました。主に対する信頼はさらに
強くなっていました。すると今度は、
もっと深い所にあるねじをまず外して
からバッテリーの留め金の固定ボルト
を回すようにという導きを感じたので、

そうしました。固かったねじは簡単に
動きました。程なく、わたしは古いバッ
テリーを取り出すことができました。

新しいバッテリーを入れ、感覚のな
い指であらゆるパーツをできるかぎり
元の状態に戻し、ケーブルを元に戻し
ました。トンプソン兄弟は、車のキー
を回すと満面の笑みを浮かべました。
エンジンがかかったのです。わたしは
感謝しながらボンネットを閉めました。
1時間くらい外にいたためひざから下
の感覚がなく、ごちなく歩いて自分
の車に戻りました。

わたしはトンプソン兄弟とクラーク



工具を替え、
体勢を変えてやってみましたが
進展はありません。
寒さといらだたしさで、
我慢は限界にきていました。

大切なもの

わたしは以前、顧客相談窓口で電話対応業務に就いていましたが、職員同士の十分な交流は望めない状態でした。そこで上司は、職場の人たちが互いに知り合う機会を作ろうと、ある土曜日にグループ全体の昼食会を計画してくれました。上司は一人一人に、自分が大切にしているものを何か持って来て、なぜそれが大切なのか説明するよう指示しました。

この指示について考えているうちに、これは同僚たちに福音を教えるいい機会になることに気がつきました。宗教は慎重に扱うべきテーマですから、何を持って行くか、それが自分にとって大切な理由をどう説明するかについてはよく考えたうえで決める必要があると思いました。

昼食会の日には、皆お互いのことが分かるようになり、楽しく過ごしました。食事の後、上司が自分の大切なものと言って家族のアルバムを見せ、予定された活動を始めました。上司は夫と別れてシングルマザーとなり、新しい生活を始めた苦勞を話してくれました。

何人かの発表に続いて、わたしの番になりました。同僚たちに、自分が持って来たのは、毎日身に着けているCTRリングだと言いました。CTRは「正義を選ぶ」の略だと伝え、この指輪を見ると、常に神の戒めを守ろうという気持ちになると話しました。何人かの人、教会のことや末日聖徒が信じていることについて質問してきました。そのおかげで、天の御父がその子供たちのために立てられた計画の中で家族が大切だということや、家族が永遠に続くこと、わたしたちのために命を捨ててくださった主がおられることを伝えることができました。わたしは

また、伝道中に経験したことも話しました。話していると御霊を感じました。同僚たちも同じだったと思います。

その日以来、福音について別の質問をしてくる人も出てきて、そのうちの何人かは教会にも招待しました。わたしは後に転職したので、興味を抱いてさらに知りたいと思った人がいたかどうかは知るよしもありません。しかし、イエス・キリストのまことの教会が地上にあり、天の御父はその子供たちのための計画をお持ちであることを自分は伝えたのだと思うと、良い気持ちを感じました。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちには福音を分かち合う責任があります。CTRリングのように小さな、簡単なことによって、兄弟姉妹を救いに導くような偉大なレッスンを教えることができるのです。■

ラファエル・バリ奥斯
(アルゼンチン、サンタフェ)

宗教は慎重に扱うべきテーマですから、何を持って行くか、それが自分にとって大切な理由をどう説明するかについてはよく考えたうえで決める必要があると思いました。

兄弟の乗る車の後について行き、無事家に着くのを見届けました。運転するにつれ、心地よいヒーターのおかげで、足は徐々に温まってきました。助けてくださったことを天の御父に何度も感謝しました。すると、あることが分かりました。御父はこの二人の兄弟の祈りに答えて、わたしを僕として遣わされたのでした。御父はすばらしい方法で彼らの願いにこたえ、わたしの信仰をさらに堅固なものにしてくださいました。■

C・リー・ベンディクセン
(アメリカ合衆国、アイダホ州)



ソファーに腰かけると

悲しさが込み上げてきました。

すると、2歳の息子が毛布の所に来て、

赤ん坊はいないのにこう言いました。

「こんにちは、赤ちゃん。

大好きだよ。」



モルモン書を読みなさい

わたしたちは喜びに満たされているはずでした。しかし、心は重く、腕の中にわが子はいませんでした。デブラ・カエリア・カーターを出産したのは予定日の2010年4月26日でしたが、死産だったのです。

家に帰ったとき、わたしは小さなピンク色の毛布を持っていました。病院でデブラをくるんで抱いた毛布です。ソファーに腰かけると悲しさが込み上げてきました。すると、2歳の息子が毛布の所に来て、赤ん坊はいないのにこう言いました。「こんにちは、赤ちゃん。大好きだよ。」

涙が頬を伝い、わたしは顔をそむけました。そのとき、壁に掛かった『フレンド』のポスターが目に入りました。「わたしたちが祈れば、天の御父はそばにいてくださり、聖霊もそのささやく声がわたし

たちに届く距離にいてくださいます。』¹

わたしは心の中で、熱烈に神に祈り始めました。祈っていると、聖霊がささやいておられるのを感じました。「もう一度モルモン書を読みなさい。」モルモン書は読み終えたばかりでしたが、そのささやきははっきりと感じられ、鮮明な印象でした。

翌朝早く起きると、わたしはモルモン書を読み始めました。鉛筆とマーカーを使い、信仰や祈り、希望、イエス・キリストの特性、福音を宣べ伝えること、主の声に耳を傾けることについて書いてある箇所にすべてマーカーで印を付けました。ニーファイやエノス、モロナイなど、モルモン書の預言者が試練に苦しんだときに行ったことをわたしもしなければならぬということが分かりました。しかも、彼らの人生に満ちていたと同じ救い主に

対する愛を込めて行わなければならないのです。

こうして毎日聖文を研究していると、主の愛の御腕に抱かれて感じるように感じ、すべての人に及ぶ主の贖いの犠牲の力を感じました。御霊がわたしに語りかけてくださり、平安に満たされました。わたしの心からの祈りに答えが与えられました。読んだ言葉について深く考えると、悲しいときにも力がわいてきました。

ある日、次の言葉を読んでいて御霊に満たされました。

「わたしは完全な愛をもって幼い子供たちを愛している。幼い子供たちは皆等しい存在であり、救いにあずかる者である。……

幼い子供たちは皆、神の憐れみのおかげで、神によって生きている……。

見よ、すべての幼い子供たちはキリストによって生きている。」(モロナイ8:17, 19, 22; 強調付加)

娘がキリストにおいて生きていて、幸せそうにほほえんで主の御腕に抱かれているのが見えたような気がしました。その時以来、堪え忍ぶ力がつき、家族について新たな希望が持てるようになりました。家族が贖いと聖文、生ける預言者の言葉をしっかりと心に留め、神殿の聖約によってお互いにしっかりと結ばれているならば、再び家族として永遠に結ばれることが分かりました。

わたしはモルモン書が大好きです。この書物はイエス・キリストについてはっきりと証しています。イエスがわたしたちのために行われたこと、わたしたちのために行っておられること、イエスのようになるためにわたしたちがなすべきことについて証しているのです。モルモン書はわたしの人生に光を与え、わたしの心をキリストへの望みで満たしてくれます。■

ジュリー・カーター
(アメリカ合衆国、バージニア州)

注

1. イレイン・S・ダルトン「いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても」「リアホナ」2008年5月号、118

父さんの靴

何年か前のことです。両親は、困っている人に寄付する衣類や靴などを扶助協会が整理していたときに、それを手伝っていました。そのとき父は、保存状態の良い1足の靴が山積みの荷物の中にあるのに気がつきました。父はそれを見て、手もとに置いておかなければという強い思いに駆られました。

母は笑って言いました。「この靴はあなたの足より3サイズも小さいわ。履けるわけないでしょ。」

しかし、父はどうしてもと言って譲りません。姉妹たちはからかいながらも、結局その靴を父に持ち帰らせてくれました。

父は家に着くなり、その靴をきれいに磨いて新聞紙を詰め、箱に入れて自分のたんすの上に置きました。そして、その箱には触るなどわたしたちに言い渡しました。それから5年間、靴はそこに置いたままになっていました。

ある日、隣の家新しい家族が引っ越して来ました。子供が3人いて、末の子は6か月の赤ん坊でした。姉とわたしは同年代の二人の女の子とすぐに仲良くなりました。わたしたちはこの新しい友達に教会で学んでいることを伝え、初等協会に誘いました。二人は大喜びで、わたしたちから聞いたことについてもっと知りたいと言いました。

初等協会から帰ると、この二人は教会のことをとめどもなく両親に話しました。そこで、わたしの両親は家族で宣教師のレッスンを聞いて教会に行くことを勧めました。すると、家族一同、この申し出を喜んで受け入れてくれました。レッスンもたいそう気に入ったようで、わたしたちは彼らと一緒に教会に出席するのが楽しみでたまりませんでした。

しかし、土曜日になると、彼らの娘たちは元気がありません。どうしたのかと聞くと、両親には教会に行く気ももうないのだと言います。

がっかりしたわたしたちは、父に頼んで彼女たちの両親と話してもらいました。教会に行く祝福について父が話すと、その父親はこう言いました。「はい、全部分かっています。問題は、わたしがスニーカー以外、長年履いたことがないということなのです。教会へはきちんとした服装で行かなければなりませんからね。」

それを聞くと、父は即座に母の顔を見ました。母には父の言いたいことがはっきりと分かりました。なんと、父のたんすの上の箱に入っていた靴は、友達父親の足にぴったりでした。その

おかげで友達、家族全員で教会に行くことができました。それは、彼らにとっても、わたしたちにとっても、素晴らしい日曜日でした。彼らは間もなく教会員になり、現在では、素晴らしい永遠の家族になっています。

父が聖霊の導きを受けてこの靴を保管していたことがわたしには分かりました。これを目の当たりにしたわたしは、いつも聖霊の導きを求めながら、福音を聞く準備のできた家族を探すようになりました。主がそのような家族を用意しておられること、そのような家族を探してキリストのもとに導かなければならないことをわたしは知っています。■

プリシラ・コスタ・シャビエル
(ブラジル、サンパウロ)

「この靴はあなたの足より3サイズも小さいわ」と母が笑って言うのにもかかわらず、父は手もとに置いておかなければという強い思いに駆られました。



上を見る

わたしたちすべての人に
求められているのは、
横を見て自分の生き方を
人がどう見ているかを
気にすることではなく、
上を見て
天の御父が自分をどのように
見ておられるかを
考えるようにすることです。



七十人
カール・B・
クック長老

若いころ、わたしはドイツ・ハンブルク伝道部で奉仕するよう召されました。言語訓練伝道部（宣教師訓練センターの前身）では、新しい言語がなかなか覚えられませんでした。最初の1週間が過ぎ、2週目も過ぎるころには、同じディストリクト（グループ）の人たちが自分よりもずっと早く上達していることに気がつきました。彼らが複雑な内容に移っているというのに、わたしは *die*（ディー：女性名詞の前に付く定冠詞）、*der*（デア：男性名詞の前に付く定冠詞）、*das*（ダス：中性名詞の前に付く定冠詞）といった初歩の初歩でつまづいていたのです。

わたしは心配になり、落ち込みました。教えるよう召されたのに、相手と言葉が通じなかったら、伝道などできません。

わたしは助けを求めて祈り、神権の祝福を求めました。そのおかげで、少し心が落ち着きました。しかし、引き続き祈り求め、懸命に努力しました。そしてある日、いつになくピリピリして不安でたまらなくなっていたときに、同僚と一緒に廊下を歩いている

清掃用具室の所でふと足を止めました。少し待ってもらえないかと同僚に頼み、わたしはその小部屋に潜り込むとモップの上にひざまずきました。そして、悩みを和らげてくださるよう天の御父に訴え始めたのです。

主は祈りに答えてくださいました。次のような思いが頭に浮かんだのです。「わたしはドイツ語を習得させるためにあなたを召したわけではありません。心と思いと力を尽くして仕えるためにあなたを召したのです。」

その瞬間、わたしにはできると思いました。心と思いと力を尽くして仕えることなら、わたしにもできます。それが主の望まれることなのであれば、わたしにはできると思ったのです。わたしは立ち上がり、とても救われた気持ちになりました。

その時から、わたしの物差しは変わりました。自分の進歩や成長を同僚やディストリクトの宣教師を基準にして測ることがなくなったのです。代わりに、わたしの努力を主はどのように感じてお

られるだろうかと考えるようになりました。横を見て自分を人と比べるのではなく、言わば上を見て、主が自分の努力をどう思っておられるかを知ろうとするようになったのです。

それ以来言語の習得が目を見張るようになつたり、言葉が上手になつたりしたかどうかは分かりませんが、以前の悩みは解消しました。主が望んでおられることが分かりましたし、それはわたしにできることだったのでした。

わたしは朝、天の御父に相談するようになりました。その日何が起るかは分からないけれど、最善を尽くしますと御父に申し上げます。こう祈りました。「どんなことであれ、学べることは学ばせてください。でも、どんなことでも、今日わたしは最善を尽くしてあなたのために働きます。」

夜には再び祈り、何を学び、何を行つたか報告しました。困っていることもうまくいっていることも同じように天の御父に伝えました。ほかの人を見ず、自分を尺度にすることすらせずに、主を尺度にして自分の成長を確認するようになったのです。



35年以上も前に小さな清掃用具室の中で学んだ教訓を、多くの召しや割り当てを果たすときに、これまで忘れたことはありません。わたしは能力以上のことが求められるようなことを頼まれると、必ずこの経験を思い出して自問します。「待てよ。わたしはどなたに召されているのだろうか。どなたに仕えているのだろうか。どなたを喜ばせようとしているのだろうか。」

今日、わたしたちが生きている世界にはありとあらゆる尺度があり、そのほとんどが外面的な尺度です。このような尺度は、特にヤングアダルトの皆さんにとって厳しいものだと思います。学校に行くと成績が付けられますが、それはほかの授業で経験することや自分の家族や生活状況を考慮して付けられるわけではありません。人は見た目や、運転している車で判断されることがあります。わたしたちはソーシャルネットワーキングの自分のウェブページに書き込んでくれる友達は何人いるかを基準に自分の価値を測ることがあります。デートの相手について人はどう思っているかとか、卒業前に結婚したら人はどう思うだろうかと心配します。ともすると、人を喜ばせるためにだけ何かをするようになってしまいかねません。しかし、人はそのような外面的な尺度に頼ることはできないのです。世の人々は褒めたたたえかと思うと、手のひらを返すように批判します。

わたしたちすべての人、特に若い人たちに求められているのは、横を見て自分の生き方を人がどう見ているかを気にすることではなく、上を見て天の御父が自分をどのように見ておられるかを考えるようにすることです。御父は顔かたちではなく、心を御覧になります(サムエル上16:7参照)。それに御父はわたしたち一人一人に必要なことをだれよりもよく御存じです。

では、どのようにして「上を見」ればいいのでしょうか。幾つか原則を挙げますので、参考にしてください。

霊的な力を活用する

個人の祈りと聖文研究で一日を始めてください。こうすることによって、わたしたちは物事を判断するときに必要な霊的な力を活用することができますようになります。祈りでは、わたしたちのために立てられた神の計画が理解できるようにと懇願することができます。神の計画をすべて理解することはできないかもしれませんが、計画のうちその日に関係ある部分だけでも理解できるよう願うことはできます。これが理解できるようになると、御父に従うことを選んだ結果として祝福を得ることができるようになります。また、受けた導きに従って行動することができるようになります。難しいこともできるようになりますし、何を要求されても、正しい動機でそれができるようになります。

受けた導きに従う

愛にあふれる天の御父から個人の啓示を通して受けた導きに忠実に従ってください。こうすることによって、わたしたちは「上を見る」ことができるのです。導きに従った行動を人からいさめられることがあるかもしれませんが、それが善意からであるにせよ、わたしたちは自分が感じた導きには忠実に従う必要があります。

わたしたち夫婦には、専任宣教師としてスペインで奉仕している娘がいます。この娘は、わたしが伝道部長を務めていたために、高校時代をニュージーランドで送りました。彼女は21歳になると、こう言いました。「パパ、ママ、わたしは伝道に出る必要があると思うの。」もちろんわたしたちは、義にかなったこの決断を聞いて

愛にあふれる天の御父から
個人の啓示を通して受けた導きに
忠実に従ってください。
こうすることによって、
わたしたちは
「上を見る」ことができるのです。



てうれしく思いました。しかし、10代のころに友人や家族と離れて引っ越したことが本人にとっては犠牲だったことが分かっていたから、わたしは娘にこう言いました。「お前はすでに伝道に出たよ。」

すると、娘はにっこり笑ってこう言ったのです。「違うわ、パパ。それはパパの伝道でしょう。今度はわたしが行って主に仕えたいのよ。」

「いいだろう。」わたしはにっこり笑ってこう言いました。「自分の伝道に行っておいで。奉仕するようという導きに従うといい。」

今わたしはうれしくてたまりません。それは娘が天の御父とスペインにいる御父の子供たちに仕えているだけでなく、自分が感じた導きに従っているからです。娘は自分が正しいと感じていることを行おうと決めました。天の御父が自分のために用意しておられる計画だけを基準とし、親であるわたしが善意で語ったことにはまったく頼らず、自分のなすべきことを自分で決めたのです。

恐れず行動しましょう

わたしたちの人生のために天の御父が用意しておられる計画を知ることとはとても大切なことですが、わたしたちはともすると、あらゆることを始めから終わりまで知ることにござわりすぎて、行動に移すのが怖くなる場合があります。このようなわなにはまらないようにしてください。判断力を最大限に働かせて賢明な選択をし、人生を進んでください。選ぶことによってわたしたちは祝福されます。失敗を恐れず選ぶことをためらってはいけません。恐れず新しいことに挑戦してください。

そうすれば、人生の旅路で喜びを見いだすでしょう。

持ち場に就く

家族でニュージーランドに住んでいたとき、わたしたちは求道者や新会員、宣教師などが経験している多くの問題に押しつぶされそうになりました。答えを求めて祈るとき、すぐに答えが頂けるようにと期待していることがよくありました。

助けはだれにでも必要です。そして、求めている助けが直ちに与えられることも**確かに**あります。しかし、答えは思っていたのとは違う方法で与えられることもありますし、期待していたほどすぐには与えられないこともあります。そして時には、まったく与えられないように思えることもあるのです。

そのような場合には、主が何らかの助けを与えてくださるまで「持ち場に就く」ようにしてください。どんなに長く待たなくてはならないとしてもです。しかし、持ち場に就くと言っても、ただじっと立っているという意味ではありません。先に述べたように、恐れず**に**行動してください。続けて善いことを行ってください。引き続き戒めを守ってください。さらなる導きを受けるまで祈り、研究し、最善を尽くしてください。持ち場を離れてはいけません。時が来れば、主は万事があなたの益となるようにしてくださいます。

言語訓練伝道部での経験以来、「上を見る」ことによって、わたしは繰り返し祝福を受けてきました。ヒラマン3:27でモルモンが説明しているように、「主は、真心から主の聖なる名を呼ぼうとするすべての人に憐れみをかけられる」のです。わたしは主の憐れみと愛を感じてきましたし、実際にそれを受けてきました。わたしたちが主を信じ、主の御名に頼るとき、主の憐れみはすべての人に及ぶことをわたしは知っています。■



天に目を向ける

「わたしたちは、天に目を向けることを、生涯をかけて行おうと努めなければなりません。愚かな人は、神の知恵に背を向けて移り変わる流行に誘われ、偽りの人気に引き付けられ、その場かぎりの興奮に身をゆだねます。彼らの行いは、1杯のあつものために生得権を譲り渡したエサウの行為に似ています。

そして、そのような行為はどのような結果をもたらすでしょうか。わたしは今日証します。神に背を向けると聖約は無効になり、夢は破れ、希望は打ち砕かれます。お願いします。そのような泥沼を避けてください。皆さんには気高い生得権があります。御父の王国で永遠の命を得ることがわたしたちの目標です。

そのような目標は、一度華々しい業績を上げたからといって達成されるものではありません。義にかなった行いを生涯積み重ねた結果として成し遂げられるものです。それは、賢明な選択の積み重ね、または、一貫した目標、崇高な理想の積み重ねであるとも言えます。

混乱する現代、良心の葛藤や日々の生活での波風のまただ中であって、いつまでも変わらない信仰は、わたしたちの生活の中で**いかり**となり、

トーマス・S・モンソン大管長
"Guideposts for Life's Journey"
(2007年11月13日、プリガムヤング大学ディボーションアルでの説教) 3, speeches.byu.edu

そこが知りたい

若い男性に対して、
伝道に出るように
強く言われているのは
なぜですか。

これは個人が決めることではないのですか。

若い男性が個人的に決断しなければならないこととは、伝道の奉仕をするという自らの神権の義務を果たすか、果たさないかということです。トーマス・S・モンソン大管長は次のように言っています。「ふさわしく、能力があるすべての若い男性は伝道に出る準備をするべきです。宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに、主が望んでおられる務めなのです。若い男性の皆さん、わたしは皆さんに宣教師として奉仕する準備をするよう勧告します。」（「再びともに集い」『リアホナ』2010年11月号、5）

伝道の準備をすることは、若い男性がアロン神権者として行うべきことの一部です。それは義務であり、その義務に対してはそれ相当の重みを感じるべきです。しかし単に、期待されていることだから、あるいは、プレッシャーを感じるからという理由で伝道の奉仕をするべきでないことは言うまでもありません。イエス・キリストの回復された福音を人々に分かち合いたいという望みがあるからこそ奉仕するというのであればなりません。

しかし、伝道の奉仕について祈るときに覚えておかなければならないことがあります。それは、神権を受けたとき、「警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招〔く〕」という神聖な責任を受け入れたということです（教義と聖約 20：59）。そこには専任宣教師として奉仕する責任も含まれているのです。健康や身体の障がいを理由に奉仕ができない場合は、免除されても決して不名誉なことではありません。■



守護天使は
いるのですか。
わたしにも守護天使が
割り当てられている
のでしょうか。

聖文に「守護天使」という言葉は使われていません。しかし、「働〔く〕」あるいは「教え導〔く〕」天使として語られています（オムナイ1:25；モロナイ7:22, 29）。「天使は聖霊の力で語り（2ニーファイ32:3）、多くの場合、忠実な者を慰め、導き、守り、真理を明らかにする、あるいは確認するという聖霊の使命を共有しています。ですから、聖霊御自身を守護天使であると、考えることができます。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように教えています。「初めから、後の神権時代に至るまで、神は天使を使者として使い、御自身の子供たちに愛と関心を示されました。……見えても見えなくても、いつも近くにいるのです。」「（天使の務め）『リアホナ』2008年11月号, 29)

一人一人を見守るために天使が一人ずつ割り当てられているかどうかについて、主は明らかにしておられません。しかし、神の守りと慰めは必ず得ることができます。信仰を働かせるなら、神の助けが与えられます。その助けの中には、天使が遣わされてわたしたちを強め、慰め、正しいことを行う勇気を与えてくれることも含まれているのです。■

同性愛について
教会はどのような立場を
取っていますか。

**同性愛的な感情を
持っている人と
友達になっても
いいでしょうか。**

教会は同性愛の行為には反対していますが、同性に引かれる人々に対しては理解と敬意をもって手を差し伸べています。

もしあなたが同性に引かれる人を知っているなら、ほかの友人に対するのと同じ原則に従ってください。「友達は慎重に選んでください。彼らはあなたの思いや行いに強い影響を与え、あなたがどんな人物になるのかを決定づける助けにさえなります。高い標準を守るために励まし合い強め合えるような、価値観を分かち合える友達を選んでください。ほんとうの友達はあなたが最高の自分になれるように力を与えてくれます。』（『若人の強さのために』12)

人間が持つ性的能力には、天の御父の計画において一つの目的があると教会は教えています。わたしたちが幸福になり、その目的を果たすために、純潔の律法に従うように戒められています。同性愛の行為はその目的に反しており、神の戒めに背くものです。

しかし、同性に引かれていても、その感情に任せた行動を取らない人は罪を犯していません。道徳に関する教会の標準は、あらゆる人に対して同じであり、心引かれる

相手の性別は関係ありません。主も、主の教会も、主の律法に違反する行為はどのようなものも容認することはできません。もう一度言います。わたしたちが罪に定めるのは不道徳な行為であって、人ではないのです。■

このテーマについてさらに知りたいときは、ジェフリー・R・ホランド長老「同性に引かれる問題に苦しむ人々を助ける」『リアホナ』2007年10月号, 40を読んでください。

フットプリントレシーションロバート・ケシー。あなたの中の神の御霊の御声。ウオルター・レイン画©2010



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

聖約を守る

伝道に出ようと
する人たちへの
メッセージ

この業の^{かぎ}鍵は

聖約を守ることにあります。
ほかのいかなる方法をもってしても、
神聖な力を求めることも、
示すこともできません。

これから皆さんに、聖約を守ることが
きわめて重要であることについて
お話しします。わたしはわたしの
聖約を守り、皆さんは皆さんの聖約を守ること
についてです。これには明らかに従順が含ま
れていますが、従順より幅の広いテーマです。
また、非常に個人的なテーマです。

ある意味において、これは福音の計画を話
題にするときの最も基本的な事柄です。それ
は、聖約を交わす人と聖約を守る人だけが、日
の栄えの王国の最高の祝福を求めることが
できるからです。そうです。聖約を守ることに
ついて話すことは、死すべき状態におけるわた
したちの目的の核心について話すことなのです。

聖約を一つずつ交わしながら王国を建設する

聖約とは拘束力のある霊的な契約です。わたしたちがある特定の方法、つまり、御子である主イエス・キリストの方法で生活し、考え、行動することを御父である神に立てた厳粛な約束です。それに対し、御父と御子、そして聖霊はわたしたちに、永遠の命という完全な栄光を約束しておられます。

わたしが興味深いと思うのは、聖約は一人一人が個人的に交わすものだということです。わたしたちを永遠の命へ導く出発点に立たせるバプテスマと確認のときの聖約があります。最終的にこれらの儀式を受ける人が何人になろうとも、儀式は個人に対して行われます。

男性が神権を受けるときに交わす聖約があります。神権はいつも一人ずつ、個人に授けられます。

わたしたちが交わすことのできる最高の聖約は神殿内で行われます。神殿は、わたしたちが天の御父に最も厳粛な約束をする場所であり、御父がわたしたちに対する約束の真の意味をさらに完全に教えてくださる場所です。もう一度言いますが、これらは個人的な経験です。神殿に行き、ほかの人と結び固められるときも、それは個人の経験です。

神の王国はこうして一人ずつ、一つずつ聖約が交わされることにより築かれ、この地上の

旅路におけるすべての道は聖なる神殿の最高の聖約へと続いていきます。

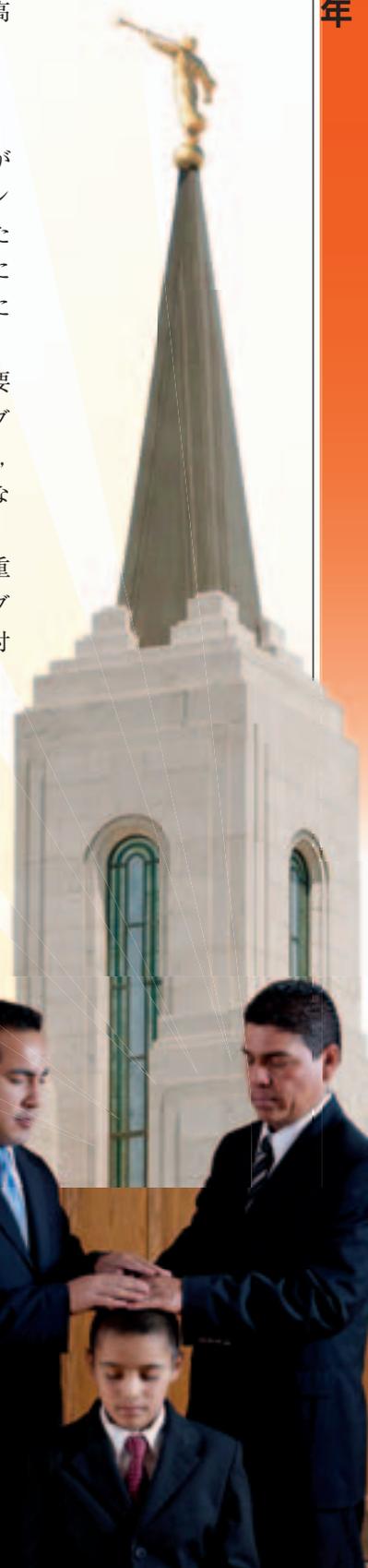
神殿の聖約の役割

皆さんが理解すべき非常に大切なことがあります。それは、神殿に行き、皆さんをエンダウメントに備えさせる荘厳な儀式を含めた自身のエンダウメントを受けることは、伝道に出る準備をし、伝道への決意を固めるためになくしてはならないということです。

神殿に行くと、これら神殿での聖約の重要性が分かってきます。そこで行われるエンダウメントを伝道の成功に結びつけるためには、どうしても神殿で聖約を交わすことが必要なのです。

実際、エンダウメントという言葉は、この重要なつながりの本質を伝えています。エンダウメントとは贈り物、特に公共施設への寄付金という意味の言葉です。その語源は、結婚生活を始める夫婦への特別な贈り物を意味するダウリー (*dowry*) と同じです。ブリガム・ヤング大学の学長時代、わたしは自分の時間を割き、篤志家からの大学への寄付金 (エンダウメント) 集めに力を注ぎました。

これこそ、わたしたちが神と聖約を交わす度に神がしてくださっていることです。



フットボール、クリスチャン・ナ・スミス





神はわたしたちに贈り物を下さっているのです。わたしたちはそれぞれの儀式に応じた約束をし、それに対して、神は特別な贈り物を約束してください。それはすばらしい贈り物、言葉で表すことができないほど、とても理解できないほどのすばらしい贈り物です。そこでわたしは自分自身に言い聞かせると同時に、皆さんに申し上げます。召しを十分に果たしたいと心から望み、御父からすべての助けと、すべての便宜と、そしてあらゆる祝福を得たいのであれば、また、天の扉が大きく開かれて神の力を受けることを望むならば、聖約を守らなければなりません。

これを自分一人ではできないことを皆さんは知っています。わたしたちには天の助け、つまり神の贈り物が必要です。この最後の神権時代における業が始まったそのとき、「シオンの贖い^{あがな}」について教えておられた神は、次のように言われました。

「それは、彼ら自身が備えられるためであり、またわたしの民がもっと十分に教えを受け、経験を得、彼らの義務とわたしがその手に求めることに關してもっと十分に知るためである。

わたしの長老たちが高い所から力を授けられるまで、これは成し遂げられない。

見よ、彼らが忠実であり、わたしの前に引き続き謙遜^{けんそん}であるならば、わたしは、一つの大いなるエンダウメントと祝福が彼らに注がれるように用意をしている。」(教義と聖約 105:10 - 12)

この業は非常に重大であり、サタンは強大な力で抵抗しています。そのため、わたしたちはあらゆる神の力を得て、教会を着実に前進させるためにさらに努力する必要があります。そこでわたしたち一人一人にとって鍵となるのが、神殿で交わす聖約です。わたしたちは御父に対して従順に従い、犠牲を払い、奉獻することを約束し、御父はわたしたちに「大いなるエンダウメント」をもって力を与えてくださるという約束です。

聖約と主の業

これで、わたしたちが個人的に交わす約束が、壮大で偉大な業にとってどれほど欠かさないものであるのか理解できたでしょうか。救いの計画のほかのあらゆることと同じように、世界中のすべての長老、姉妹宣教師の成功は、宣教師一人一人の働きで決まります。

わたしたちは、ワードやステーク全体として聖約を交わすことはしません。そうではなく、ブラウン兄弟、バーンズ兄弟、ジョーンズ姉妹やジェンセン姉妹として聖約を交わします。この業の鍵は、個人が聖約を守ることにあります。

皆さんがどの伝道部で奉仕するのかわたしは分かりませんが、天の御父が皆さんがこれから行く伝道部全体に対して何か具体的な約束をしておられるわけではないと思います。わたしに分かっていることは、御父が皆さん個人に大いなる約束をされているということです。

すべての宣教師の誠実さ、つまり一人一人の宣教師が聖約を守ることで生み出される力によって伝道部全体が一つとなるときに、わたしたちは山を動かすのです。このような一致と力があるとき、すなわち伝道部の一人一人にもたらされる天からのエンダウメントがあるとき、どのようなものも「御業^{みわざ}の前進を止める」ことはできません。こうして「神の真理は大胆に、

気高く、そして何者にも頼ることなく進んで」行きます。¹

このような確信が持てるのは、鎖の一つとして弱い輪がないとき、よろいのどこにも攻撃されやすい隙間がないときです。悪や過失と戦う方法は、福音の勝利が達成されるのと同じ方法です。つまり、個人一人ずつ、宣教師一人ずつが聖約を一つずつ守って福音の勝利を収めるのです。

「あなたがたは、わたしの前に^{きよ}聖さを尽くして行動する義務を自ら負わなければならない。あなたがたがこれを行うならば、あなたがたの受けた王国に栄光が加えられるであろう」と主が教会の初期の指導者に対して言われた理由はここにあります(教義と聖約 43:9-10)。

これは聖約についての言葉です。わたしたちはまさにこれを行うために神殿に行きます。つまり、わたしたちを主と結び合わせ、またお互いを結び合わせ、そしてその力をもって「聖さを尽くして行動する」のです。そうすることで、わたしたち自身とわたしたちのなす業に力と栄光がもたらされます。まさに聖約を守るという意味で主は言われました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約 82:10)

わたしの言うことを信じてください。この業の鍵は聖約を守ることにあります。ほかのいかなる方法をもってしても、神の力を求めることも、示すこともできません。このことに関して、主は確かに約束してくださっています。

皆さんはこれから、伝道に備えるために神殿に行きます。神殿で交わすすべての聖約を守ってください。それらは、わたしたちが天の御父と交わす大変に個人的で、非常に神聖な誓いです。

あかし 証する聖約

わたしがこれを皆さんにお願いするとき、わたし自身も同じように行うことを皆さんに知ってほしいと思います。わたしも、自分の聖約を守ります。十二使徒定員会の一員として交

わす聖約の一つが「全世界におけるキリストの名の」特別な証人となることです(教義と聖約 107:23)。わたしは自分の聖約を守り、今日、皆さんに主イエス・キリストと十字架で犠牲となられた主について証するだけでなく、その証を世界に伝えるために召され、聖任され、権限を与えられた特別な証人です。愛する若い友人の皆さん、皆さんとともにこの務めに加わることができて幸せに思っています。

神が生きておられることをわたしは知っています。神は文字どおりわたしたちの天の御父であり、わたしたちへの約束を永遠に守ってくださることを知っています。イエスがキリストであり、肉における御父の独り子であり、世の救い主であられることを知っています。イエスは、わたしたちが永遠の命を得ることができるよう、苦しみ、血を流し、亡くなってくださったことを知っています。

御父と御子が少年であった預言者ジョセフ・スミスを訪れられたことを知っています。ジョセフ・スミスは最後の神権時代の基礎を築いた預言者であり、自分の召しの証として血を流しました。それは、自ら交わした聖約への忠誠を示す究極の象徴となる行為でした。これら預言者の鍵が途切れることなく15人の男性を経て今日に至っていることを知っています。そして今、その鍵は地上における神の管理大祭司であるトーマス・S・モンソン大管長が所有し、鍵を使って預言者として教え、導いていることを知っています。

この業は真実です。今わたしが宣言したことは真実です。わたしはこれらのことを知っています。これを、それまでこの世に生を受けたいかなる男性にも女性にもかわりなく、わたし自身が個人として知っています。わたしはこれらのことを、聖なる御霊の現れによって知っています。御霊はわたしの人生に方向を、そして証に意味を与え、世の贖い主の特別な証人として、わたしを皆さんとともに遣わしておられるのです。■

1997年4月25日に行われた衛星放送による宣教師のための説教から。

注

1. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第4巻, 570





若い女性よ、 立って光を放ちなさい

中央若い女性会長会

今年のミューチャルのテーマは、リーダーになるようにとの皆さんへの呼びかけです。清さと慎み深さ、聖きよさにおいて導き手になるようにとの呼びかけです。世界を変えるようにとの呼びかけなのです。

若い女性の組織の一員となったときに、皆さんは金と白のたいまつたいまつのネックレスをもらいました。末日聖徒イエス・キリスト教会の若い女性として、真理と義を擁護し、立って自分の光を世に放つことを覚えておくためです。それ

は、神の尊い娘としての自分のあるべき姿を守ることです。また、「いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても」神と救い主の証人になる努力をするということでもあります（モーサヤ18：9）。

今年皆さんが誇りをもってたいまつ

のネックレスを身に着け、自分が周りの人の模範であることを思い出せるよう願っています。日々祈り、モルモン書を読み、『若人の強さのために』に書かれている標準に従い、ほほえむときに、「光を放」つのです。戒めを守り、『若人の強さのために』に記されている標準に従って生活するならば、喜びの光を放ち、聖霊の導きを受ける資格を得るでしょう。この導きにより、正しい選択をし、神殿推薦状を得るふさわしさを身に付けることができます。

これらのことを行うならば救い主が皆さんのそばで道を照らしてください。中央若い女性会長会として証あかしします。救い主は次のように約束しておられます。「わたしはまた、……あなたがたの光となろう。あなたがたがわたしの命令を守るならば、わたしはあなたがたの前に道を備えよう。……そして、[あなたがたは]あなたがたを導いているのがわたしであることを知るであろう。」（1ニーファイ17：13）■

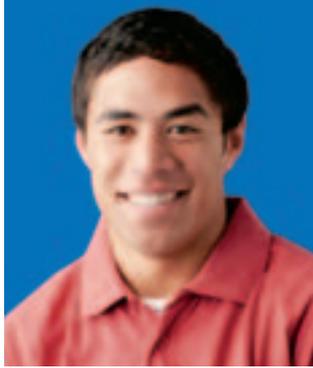


2012年の ミューチャルの テーマ

「立って光を放ちなさい。
それは、あなたがたの光が
もろもろの国民のための
旗となるためであ[る。]」
（教義と聖約115：5）



最上——会長、イレイン・S・ダルトン（中央）、
第一顧問、メアリー・N・クック（左）、
第二顧問、アン・M・ディブ（右）。
上——会長、デビッド・L・ベック（中央）、
第一顧問、ラリー・M・ギブソン（左）、
第二顧問、エードリアン・オチョア（右）



輝く模範となる

中央若い男性会長会

偉大なアロン神権を持つ、執事、教師、祭司の皆さん、教会の若い男性である皆さんは、救い主の名を受けています。主の聖なる神権を持ち、主の業を行い皆さんを知るあらゆる人を祝福するために召されています。今こそ、神権の義務を果たし、「もろもろの国民のための旗」として「光を放」つべき時です（教義と聖約 115:5）。

今こそ、「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるように」するべき時です（マタイ 5:16）。イエス・キリストは完全な模範です。主を知り、主に従うよう努めてください。さらに主に似た者となるよう努めてください。そうするならば、皆さんは周りの人にとって、霊的な強さを持つ輝く力となるでしょう。

主は言われました。「主の器を担う者たちよ、清くありなさい。」（教義と聖約 133:5） 皆さんは道徳的な清さにより、救い主を代表するふさわしさを備えて毎週日曜日に神聖な聖餐の儀式を行い、ワードや支部の会員に特別な光を放つことができます。

毎日、家族や友人、定員会の会員やほかの人々のために奉仕する機会をうかがい、機会をとらえてください。皆さんはその人やそっと皆さんを見ている人にとって、楽しげに光を放つ存在となるでしょう。

あらゆる人と心からの友情を築き、すべての人に親切にすることにより光を放ってください。教会の活動や福音の教えから受けるすばらしい祝福を友達に伝えてください。世の光であり命であるイエス・キリストのもとに来るよう、勇気をもって友達を招いてください。

わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんのために祈っています。主が皆さんを愛し、主の王国を築くために皆さんを必要としておられることを証します。今こそ、主の聖なる神権を持つ者として「立って光を放」つべき時です。この神権を尊んで大いなるものとし、神への務めを果たすならば、皆さんの光は「もろもろの国民のための旗」となるでしょう。■



光を放ちなさい

だれにも光が宿っています。分かち合いましょう。

(教義と聖約 115:5 参照)

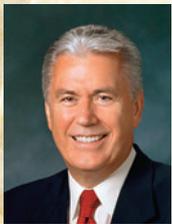


教義と聖約 115:5

主は、立って光を放つようわたしたちに命じられました。

わたしはあなたがたすべてに言う

1838年に与えられたこの啓示の中で、主はミズーリ州ファーウェストにおける神殿の建設と、シオンの確立の他の側面に関して、指示をお与えになりました。また、末日における主の教会の名前を「末日聖徒イエス・キリスト教会」と定められました。この啓示は当時の教会指導者に向けられたものですが、「立って光を放ちなさい」という戒めは今日のわたしたちすべてにも当てはまります。



立って 光を放ちなさい

「わたしたちには主から託された偉大な業があります。『立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためである。』(教義と聖約 115:5) 主は皆さんを信頼しておられます。主はこの難しくもすばらしい時代にあって、いっそう高く立ってさらに明るい光を輝かせるよう皆さんを招き、皆さんを信頼しておられます。」

大管長会第二顧問 ディーター・F・ウークトドルフ管長
“Your Right to Choose the Right,”
New Era, 2005年8月号, 8

あなたがたの光

光を放つにはどうすればよいのでしょうか。以下のアイデアについて考え、自分のアイデアを日記に書き留め

ましょう。

- 親切、寛大、謙遜になる。
- 教会の標準を擁護し、生活の指針とする。
- ほほえむ。福音に従った生活をすることの喜びを表す。
- 友達に福音を伝える。
- 真理について証を述べる。

御のためとなり、
シオンの地とそのステークに集合すること、
風と激しい怒りがもたらす
御のためとなり、
シオンの地とそのステークに集合すること、
風と激しい怒りがもたらす

わち末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれな
ればならない。
5まことに、わたしはあなたがたすべてに言う。立
つて光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がも
ろもろの国民のための旗となるためであり、



もろもろの国民

「そして今日、主の民は世界各地に広がる末日聖徒イエス・キリスト教会のワードや支部、そしてステークに集合することで、『もろもろの国民の中から』集まっているのです。

……主は、義のかがり火となるよう、またシオンに安全と祝福を求める人々の導き手となるよう、わたしたちを招いておられます。」

十二使徒定員会 D・トッド・クリストファーソン長老
「シオンに来たれよ」『リアホナ』2008年11月号, 37

旗

旗——竿の先端に取り付けるもの。結集地を示したり象徴として用いたりする。教義と聖約 45:9 参照。



「旗手は、立派な大義の先陣を切ります。善良なものや気高いものの象徴です。しばしば、身元や目的、一致を表すために旗やそのほかの象徴を掲げます。……

主の旗手であるわたしたちは、心の正直な人がイエスを見いだせるよう助けるべきです。旗は振りません。……その代わりに、イエス・キリストの旗手として、感謝の気持ちで進んで主の神聖な名を受けるのです。わたしたちは聖約により主の大義に加わります。」

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老
“Standards of the Lord’s Standard Bearers,”
Ensign, 1991年8月号, 7

編集者注——このページの目的は、聖句の完全な解釈を示すことではありません。このページを参考にして各自で学習を深めてください。

二つの祈りに こたえられた 神

カルロス・イバン・ガルメンディア・パチエコ

宣教師としてメキシコのドゥランゴで奉仕していたときに、「犠牲の週」を設けてみるようにとの課題が伝道部会長から宣教師に与えられました。1週間、熱心に働き具体的な目標を設定することにより、いつもよりもさらに努力するよう求められました。同僚とわたしは、この方法で犠牲をささげるならば、主はわたしたちを祝福してくださり、教える人をたくさん見つけることができるという信仰を持っていました。

しかし、犠牲の週に大きな成果はありませんでした。教える家族も見つからず、わたしたちは落胆しました。

翌週のある朝、同僚とわたしは担当地域の地図を見ていました。とても広い地域でしたが、端まで行く必要があると二人は感じました。

到着すると、天の御父に祈り、どの道を通りどの家に行くべきかを尋ねました。祈り終わると、周囲をぐるりと見回してすべての道に目をやりました。近くに柵があったので、上からのぞいてみました。すると、ほうきを手に持った女性が目を閉じて座っているのを見えました。

同僚が「こんにちは」と声をかける



と、女性はこちらに気づいて立ち上がり、何事もなかったかのように床を掃き続けました。わたしたちは、自分たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であり伝えたいメッセージがあると仰いました。すると、女性の家に招き入れられ、とても霊的な話し合いをしました。ジョセフ・スミスについて語りました。ジョセフが森に行って真理を求めて祈り、祈りがこたえられ、父なる神とイエス・キリストの訪れを受けたことを話しました。

女性は話を遮り、こう言いました。「それは真実です。神はわたしたちの祈りにこたえてくださいます。あなたたちに話しかけられたとき、わたしは

主の道へと導いてくれるだれかを送ってくださるよう主に祈り求めている最中でした。すぐにあなたたちが来てくれました。」

わたしたちは御霊を感じ、神がわたしたちを彼女のもとに送ってくださったこと、またわたしたちも助けを必要としている神の子を知ることができるよう、ちょうどそのときに祈っていたことを証しました。間もなくルフィナはバプテスマを受けました。数週間後、ルフィナの子供と孫、さらには近所の人まで、合わせて20人の改宗者がその地区でバプテスマを受けました。主はルフィナ姉妹のもとへわたしたちを導いてくださり、ルフィナ姉妹は家族や隣人に福音を伝える扉を開けてくれました。

天の御父に求めるならば、御父は祝福して下さいます。ただし、まずわたしたちの信仰が試されます。同僚とともに主の手に使われる者となり福音のメッセージを聞く用意ができた人たちを見つけれられたことに感謝しています。神はわたしたちを愛しておられ、わたしたちが求めるならば導いてくださいます。■

忠実で ありなさい

七十八
ジェラルド・コセー長老



フナキミズインスティテュート・ド・ストリーカー

わたしは 20 代のころ、フランスのある有名なビジネススクールに入学するために非常に難しい試験を受けなければなりません。2 年間、毎日何時間も勉強しました。しかしいつも教会とインスティテュートに行き、教会の責任も果たしていました。

試験で最も重要なのは面接でした。ある学校の面接の際には、わたしが教会の会員であることが分かり、良い結果に結びつきませんでした。

その後、最も行きかかった学校の試験を受けました。面接が始まって間もなく、面接官は勉強しない時間に何をするかあれこれ尋ね始めました。わたしにはそれが合否を分ける質問だと分かりました。しかし、自分の原則に忠実であろうとすぐに心に決めました。

わたしは「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です」と言い、教会でどのようなことを行っているかを 15 分にわたり説明しました。

校長はこのように言いました。「話してくださってうれしいです。わたしが学生時代にアメリカで勉強していたころ、モルモン教徒の親友がいました。親切なすばらしい人でした。モルモン教徒は非常に善良な人たちだと思っています。」

わたしは胸をなで下ろしました。そして、その年に入学を許可された最初の受験者の一人となりました。

この話から二つのことが学べます。まず、自分が人に及ぼす影響を過小評価するべきではないということです。第 2 に、常にわたしたちの原則に忠実であるべきだということです。最善を尽くすならば、主は足りない部分を補ってくださいます。■

石と矢と雪玉

「主のみたまがかれにともなっていたので、かれらは石も矢も当てることができなかった。」(ヒラマン 16:2)

きょうか かいぎ
教科課程部

デビッド・L・フリッシュニクト

じつわ とも に かく されました。

学校からの帰りは、普段そんなにはわくわくするようなものではありません。算数の宿題のことを考えるときもあれば、体育の授業でやったことを考えるときもあるし、あまり何も考えないで歩くこともあります。

でも、この日はちがいました。頭の中はフル回転していました。前方に、時々遊んだことのあるジョッシュとマーカスが見えて、雪玉を作ってほく

をねらっていたからです。

「よう、デビッド、こっちにこいよ。」
ジョッシュが笑いながらさげびました。
「見せてやりたいものがあるんだ。」

マーカスも笑いました。

ジョッシュとマーカスはほくより一つ年上で、強く投げることができました。二人がほくに目がけて雪玉を投げつけてくるのは時間の問題でした。普段二人はやさしいけれど、もしかして雪玉の中に氷を入れたかもしれない、と思いました。

二人のこうげきをどうやってくい止めよう、と考えました。

二人をさけて道路の反対側に走っ

てわたろうか？ だめだ、ほくのこをからかったり、悪口を言ったりしてくる。

できるだけ速く走って通り過ぎようか？ だめだ、二人の方が速いから、すぐに追いつかれてしまう。

ほくも雪玉を作ってこうげきしようか？ 名案じゃないな。相手は二人でほくは一人なんだから。それに向こうは坂の上について有利だし、下にいるほくにはかくれる場所がない。

ほくは一つだけ、これならいいと思うことをしようと決めました。ゆっくりと歩いて二人のそばを通り過ぎ、雪玉が飛んでくるのを待つのです。

坂に近づくと、ある考えがうかびま



した。レーマン人サムエルのことを思い出したのです。サムエルはかべの上うへに立たって福音ふくいんをのべ伝えました。サムエルの言いったことことが気きに入いらなかったたみは、サムエルに向むかって石いしを投なげたり矢やを射いったりしました。

ぼくは、主しゅが石いしや矢やからサムエルをまもられたと知しっていました。もしかして、主しゅはぼくに雪玉ゆきだまが当あたらないようにしてくださるかもしれません。

心こころの中なかでおいのりをして、「雪玉ゆきだまがぼくに当あたらないようにしてください」と天てんのお父様とうさまにお願ねがいしました。サムエルのように疑うたがわす、勇ゆう敢かんになる必要ひつようがあることが分わかりました。坂さかに來きたときには、玉たまは当あたらないと確かく信しんしていました。

予よ想そうしていたとおり、雪玉ゆきだまが飛とび始はじめました。顔かおのすぐ横よこをヒュッと音おとを立ててすごい勢いきおいで

通とおり過すぎた雪玉ゆきだまもいくつもあり、近ちかくて風かぜを感かんじるほどでした。うでのそばを飛とんだ玉たまもあつたし、足あしもとに落おちた玉たまもありました。でもぼくに当あたった玉たまは一つもありませんでした。一つもです！

二人ふたりはぼくが射程外しゃていがいになるまで投なげ続つづけました。でもぼくは安全あんぜんだと分わかっていました。その後家あといえまでの道みちは、特とくに何なにも起おこりませんでした。そしてそれはとてもうれしいことでした。ぼくはレーマン人サムエルのように、守まもられたのです。いのって、主しゅへの信しん仰こうを働はたらかせることで祝しゅく福ふくされたと分わかりました。■



「信しん仰こうをもつて願ねがい求もとめ、行こう動どうするときに、いのりは意義いぎ深ふかいものになることをあかしします。」

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

「信しん仰こうをもつて願ねがい求もとめなさい」

『リアホナ』2008年5月号, 94

モルモン書を 味わう

モルモン書の時代には、イエス・キリストにまみえ、主の言葉を聞いた子供たちがたくさんいました。今年は、毎週モルモン書を読むことで、みなさんも楽しく「キリストの言葉をよく味わう」ことができます(2ニーファイ 31:20)。

大人の人に手伝ってもらって、ホッチキスの針を上げてこのぬり絵のページを外してもらいましょう。毎週、読んだ後にその週の数字のすべてのスペースに色をぬります。おすすめの読書箇所は62ページを見てください。一人で読んでも、家族と一緒に読んでもいいでしょう。





「モルモン書を味わう」ための週ごとの読書提案箇所
(60 - 61 ページ参照)

週	読書箇所	週	読書箇所
1	モルモン書序文	29	アルマ 20:1-28
2	1ニーファイ 1:1-3, 18-20; 2:2-4; 3:2-7; 4:1-18	30	アルマ 23:6-7, 16-18; 24:1-7, 16-27; 27:2-5, 14, 27-29
3	1ニーファイ 8:2, 5-33	31	アルマ 30:6-9, 12-14, 31-32, 35-39, 43-45, 49-50, 55-59
4	1ニーファイ 16:9-10, 16-19, 23, 26, 28-32; アルマ 37:38-46	32	アルマ 31:1, 5-7, 12-21, 37-38; 32:1, 5-6
5	1ニーファイ 17:8-11, 16-19, 49-55; 18:1-4	33	アルマ 32:26-43
6	2ニーファイ 2:11-13, 22-27; 4:15-16; 31:5-8, 17-21	34	アルマ 37:3, 6, 8-11, 14-15; 43:1-9, 16-17, 43-47; 44:16-20
7	2ニーファイ 32:3-9; ヤコブ 7:1-20	35	アルマ 46:1-5, 11-16, 19-20; 48:7-13, 22-23; 49:25-26, 28
8	エノス 1:1-13	36	アルマ 50:25-36; 51:5-6, 11, 13-16, 20-22
9	モーサヤ 1:9-10, 18; 2:1-2, 5-8, 16-19; 3:17, 19; 4:9-10; 5:15	37	アルマ 53:10-21; 56:2-11, 43-48, 55-56
10	モーサヤ 11:1-2, 20, 27-29; 12:1, 9, 14, 17-19, 35-36; 13:15-24	38	ヒラマン 2:2-11; 5:4-13
11	モーサヤ 17:1-12, 20	39	ヒラマン 5:20-50
12	モーサヤ 18:1-17	40	ヒラマン 6:18-23; 7:6-13, 26-29; 8:1, 4, 10, 25-28
13	モーサヤ 21:1-15, 23-24	41	ヒラマン 9:1-24
14	モーサヤ 21:29-35; 22	42	ヒラマン 9:25-39; 10:1-6
15	モーサヤ 23:1-7, 19-26, 36-39	43	ヒラマン 13:1-7; 14:2-8; 16:1-3; 3ニーファイ 1:4-9
16	モーサヤ 24:8-25; 25:1, 14-19	44	3ニーファイ 1:10-15, 21-23; 2:1-2; 8:2-7, 23; 9:1-2, 18-22
17	モーサヤ 27:6-24; アルマ 36:11-12, 16-24	45	3ニーファイ 11:1-17, 23-26
18	モーサヤ 27:32-37; 28:1-9	46	3ニーファイ 17:1-24
19	アルマ 1:2-15; 2:1-9	47	3ニーファイ 18:1-9, 19-21, 24, 35-39
20	アルマ 2:10-18, 29-31; 5:1, 19, 26-27, 33	48	3ニーファイ 19:11-26; 20:1; 27:1-8
21	アルマ 6:7-8; 7:9-12; 8:1-22	49	3ニーファイ 28:1-9; 4ニーファイ 1:1, 15, 23-26; モルモン 1:1, 11-17
22	アルマ 8:23-32; 9:1-8, 14-15	50	モルモン 2:1-2, 9, 23-24, 26-27; 3:2-3, 16-22
23	アルマ 10:27-32; 11:21-46	51	エテル 1:1, 33; 2:5, 16-25; 3:1, 4-14
24	アルマ 12:1-7; 14:1-17	52	モロナイ 10:3-23
25	アルマ 14:18-29; 15:1-13		
26	アルマ 17:1-3, 12-13, 17-39		
27	アルマ 18:1-4, 8-35		
28	アルマ 18:40-43; 19:1-2, 8-15, 18-19, 22-33		





じゅうにしとていんかい
十二使徒定員会の
M・ラッセル・
バラード長老は、
このテーマについて
次のように
話しています。

どうやって もくひょう 目標を

たっせい 達成しようか？

わたしたちには信仰が必要です。神への信仰です。主イエス・キリストへの信仰も持たなければなりません。そして、そう自分自身を信じることはどれほど大事なことでしょうか。

みなさんが目標を立て、達成するために必要な自己訓練をしようとするとき、みなさんの人生に起こるほとんどの問題はなくなるでしょう。みなさんのエネルギーを、重要なことを行うために使ってください。

みなさんの目標が正しいのなら、ぜひ始めてください。

みなさんは、ふさわしく現実的な目標を立てる技能を身に付ける、という望みを育てなければなりません。

せんたくの じゅうは 自分で えらぶための たまものです

「ジュリアナ、たんじょうび おめでとう！」お父さんが言いました。お父さんは ジュリアナに、きらきらした 紙で つつんで リボンが むすんである はこを わたしました。

ジュリアナは にっこりしました。お父さんから プレゼントを もらって わくわくしました。はこを あけるのが まちきれません。

みなさんも、プレゼントを もらうとき ジュリアナの ように わくわくした 気持ちになりますか。天のお父さまは、わたしたち みんなに、大切な プレゼントを くださいました。これは せんたくの じゅうと よばれます。せんたくの じゅうというのは、自分で えら

ぶことが できる 力 のことです。地上に 来る前、サタンは だれにも えらぶことを してほしくないと思いましたが、サタンは、むりやり人を 地上に つれて来て、サタンのしてほしいことを させたいと思っていました。でも 天のお父さまは、自分で えらぶことが 大切だとごぞんじでした。正しい えらびをするたびに、せいちょうして 天のお父さまや イエス・キリストに 近づくのです。お二人は、わたしたちがよいことを えらんでほしいと 思っておられます。また 天に もどって、いっしょに すむことが できるようになるからです。

今年 しょうきょうかい では、どうやって せんたくの じゅうをつかって CTR(せいぎを えらぶ)ができるかを 学びます。■



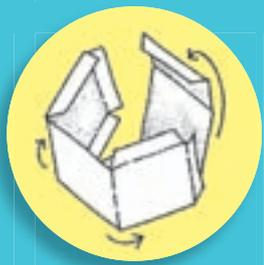
うた 歌と せいぐ

- 「神の子として」『2012年分ち合いの時間の概要』28
- 2 ニーファイ2:27



あなただけ

夜に なったら、その日した えらびについて 考えてください。よい えらびについての 絵を かいたり、しを 書いたり、歌を 作ったり しましょう。



CTRゲーム

このゲームは、もっと せんたくの じゆうについて 知るために、かぞくと いっしょに あそぶことができます。さいころの 形を 切りとって、あつ紙に のりではります。上の 図の ようにおって、のりしろを きちんと のりではり合わせます。できあがたら かわかしましょう。

かぞくで 円に なって すわります。一人が さいころをふって、出た めんの ことばをよみます。そこに 書いてあるばめんで できる えらびを いろいろ 話し合ひましょう。そのえらびを したら どう なるでしょう？ つぎの 人に さいころをわたして ふって もらいます。

きょうしつ あたら おとこ こ
教室で、新しい 男の子が
となりに すわりました。
.....
どう しますか。

いもうと
妹は、あなたや
あなたの お友だちと
いっしょに あそびたいです。
.....
どう しますか。

ジェレミーが、
あなたの しゅくだいを
うつしても いいか、と
聞いて きました。
.....
どう しますか。

マーティンが
日曜日(にちようび)に えいがを
みに行こう、と
さそって きました。
.....
どう しますか。

リアが 学校(がっこう)で
いじめられています。
.....
どう しますか。

きょうだいが あなたに
いじわるを します。
.....
どう しますか。

モルモン書は イエス・キリストについて 教えています

ダイアン・L・マンガム

旧約聖書は、イエス・キリストが地上に来られる前のイエス・キリストのことを伝えていています。イエス様はエホバと呼ばれていました。旧約聖書は、エホバに従ったたみについて伝えていています。

新約聖書はイエス様の地上での生活について伝える聖なる書物です。弟子たちが、イエス様の生涯と教えについて書きました。

ヤレドの兄弟はイエス・キリストにまみえた。



エノスがいのついていたとき、
エノスの思いに主の声が届いた。



モルモン書もまた、イエス・キリストと、キリストに従ったたみについて教えています。

モルモン書の始まりは、旧約聖書の時代、イエス様がお生まれになる600年ほど前のエルサレムです。預言者リーハイとその家族がエルサレムを出て、どのように海をこえた新世界（アメリカ大陸）の約束の地に導かれたかが書かれています。

モルモン書の預言者たちは、イエス様が地上に来られると教えました。また、くい改めてイエス・キリストに従

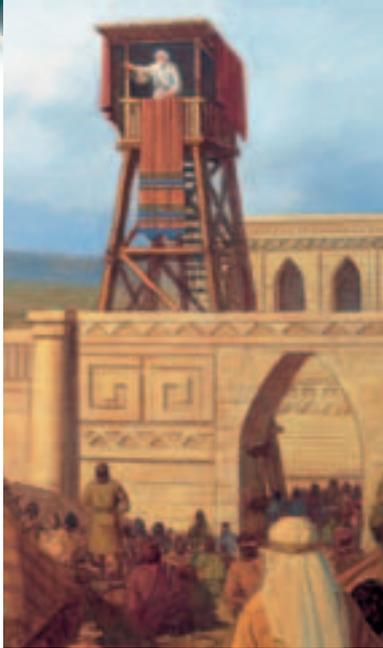
うと幸せになれることも教えました。

イエス様はエルサレムで十字架にかけられ、復活された後、たみを教えるために新世界をおとずられました。イエス様はバプテスマ、聖餐、人を愛する方法について教えられました。十二使徒をめて教会を組織されました。イエス様は新約聖書でなさったのと同じように、子供たちを集め、祝福されました。



リーハイは夢または示現の中でイエス・キリストにまみえた。

ベニヤミン王はイエス様のあがないについてたみに教えた。



聖書に出てくる預言者と同じように、モルモン書の預言者たちもイエス・キリストに対する自分のあかしを伝えました。

モルモン書の最後の預言者はモロナイでした。モロナイはイエス様が新世界をおとずれられてから約400年後の時代に生きていました。モロナイは死ぬ前に、モルモン書を読む者はだれでも、信仰を持っているならモ

ルモン書が真実であることが分かる、と書き記しました。モロナイはすべての人に「キリストのみもとに来る」ようすすめました（モロナイ10：32）。

今の子どもたちも、いのって、モルモン書が真実であり、イエス・キリストが救い主であるというあかしを受けることができます。■

うみ 海をこえて ともだち つく 友達を作る

ジェーン・ハンセン・ラセッター

フリガム・ヤング大学の保育科の学生がトンガに行く準備をしているときに、ユタとトンガの子供が友達になれたら楽しいだろうと思いました。

そこで学生たちは、ユタ州のプロボにあるオークヒルズ第9ワードの初等協会の子供たちに、トンガの子供たちのために絵をかいてもらうことにしました。その子供たちの写真もとりました。

トンガに着いた保育科の学生たちは、ネイアフ第3ワードの分かち合いの時間に参加しました。そのとき一人一人の子供に、ユタの子供たちの絵と写真をプレゼントしました。トンガの子供たちは、ユタの新しい友達について知るのがうれしくてたまらない様子でした。

トンガの子供たちもユタの子供たちに絵をかきました。自分のことやトンガの生活について書いた子もいました。英語で書いた子もいましたが、トンガ語で書いた子もいたので、初等協会の会長が英

語に訳してくれました。学生は子供たちの写真をとりました。

一人の少年はこう書きました。「ぼくはラグビーをしています。トンガはととてもとても暑いです。」またある少女はこう書きました。「あなたの写真が気に入りました。あなたはとてもきれいです。あなたと同じようにわたしも歌うのが大好きです。」また別の子供は初等協会についてこのように書き、愛を伝えました。「今日は預言者について勉強しました。あなたのことが大好きです。」■



天のおん父はそばにいてくださる

ちゅうおうしやうきやうかいかいちやう
中央初等協会会長

ローズマリー・M・ウィクソム



「わたしたちは、
心を神に注ぎ出しているのり、
わたしたちを
強めてくださるように……
(お願いしました)」
(アルマ 58 : 10)

息子の一人が11才のとき、
ひどい頭痛で目を覚まし
ました。最初は学校に行きた
くなくてぐずぐずしているのだと思って
いましたが、すぐに高熱を出していること
に気づきました。かかりつけの医者に
連れて行きましたが、手に負えない
とのことで、大きな病院に大急ぎで連
れて行きました。すると、せきずいまく
えんという重大な病気にかかっている
ことが分かりました。

容態はますます悪化して、けいれん
の発作が始めました。医師はわたし
に部屋から出るように言いました。
ホールに足をふみ入れ
るなりわたしは心
配のあまり泣
き出してしま
いました。

すると見知らぬ女性がかたをだいてく
れました。わたしは天のおん父に、息
子を助けてくださるように、またすべて
がうまくいくようにと、声を上げていの
りました。そのとき、大きな平安を感
じたのを今でも覚えています。

息子は手術を受け、快復するまでに
は長い時間がかかりました。しかし、
現在かれは健康で、結婚もして二人の
かわいいむすめの父親になりました。
この経験を通してわたしは、いのりの
力について学ぶことができました。

初等協会の歌の中に「子供の祈り」
という歌があります。そこには「お父さ

ま、子どもたちのいのりを聞いてくださ
るの」という問いかけがあります。
(『子供の歌集』12)

その答えははっきりしています。はい、
天のおん父は確かにわたしたちの
いのりにこたえてくださいます。

天のおん父が生きておられるか迷う
ことがあったら、そのときこそひざまず
いてこうたずねるのです。「天のお父
様、あなたはほんとうにおられますか。
地上に来る前にわたしはほんとうにあな
たといっしょに住んでいたのでしょうか。
再びあなたのみもとにもどってともに住
むことができますか。」

天のおん父は必ずあなたのいのりに
こたえてくださいます。そしてご自分が
そばにおられることをあなたに知らせ
てくださいます。あなたは決して独り
ぼっちではありません。わたしたちは常
に天のおん父を必要としています。そ
して天のおん父はわたしたちのために
いつもそばにいてくださるのです。■

絵/キース・ライオン



ふさわしい ふくそう

サラ・チャー

じつわを もとに 書かれました。



4. アンナは ワードの ^{ふたり}二人の
 しまいせんきょうしが ^{だい}大
 すきです。二人は、^{ふたり}教会で
 あくしゅを ^{みち}してくれたり、
 道で ^{ふたり}二人を ^み見かけたとき
 に ^て手を ^ふふると、やさしく
 ほほえんでくれるからです。
 また、^{いえ}家に ^{しよくじ}しょくじに ^{きた}来た
 ときは、^{かぞくと}かぞくと ^{いっしょ}いっしょに
 おいのりを ^ししてくれます。



5. ^{にちようび}日曜日、アンナは ^{あた}しまいせんきょうしに ^{あた}新しい ^みふくを ^み見せ
 るのが ^ままちどおしくて ^{たまり}たまりませんでした。教会で ^{ふたり}二人を
 見かけた アンナは、^{くるくる}くるくるっと ^{まわ}回って ^み見せました。



ほら、せんきょうしさん
 みたいでしょ!



6. ええ、ほんとうに
 せんきょうしみたいよ。

それに、
 せんきょうしみたいじゃなくて、
 アンナは
^{ほん}本ものの ^{せんきょうし}せんきょうしよ。

7. ^{かあ}お母さんに ^き聞いたけど、^{おねが}おねがいたように ^{せんろう}先週
 ずっと ^{わたし}わたしたちのために ^{おいのり}おいのりしてくれたんですってね。
 それでね、^{きよう}今日 ^{わたし}わたしたち ^{ある}ある人 ^をを ^{きよ}教会に
 つれてくることのできたの。アンナが ^{ずっと}ずっと
 おいのりしてくれた ^{おかげ}おかげだわ。



せんきょうしの アンナしまい、
 ありがとう。

いま 今、せんきょうしになれる

ヒカリ・ロフトス、ヒラリー・ワトキンス・レモン

アンナは せんきょうしの もはん に したがおうと がんばっています。アンナが 正しい えらびをして せんきょうしに なるように、下の せつめいに したがってください。

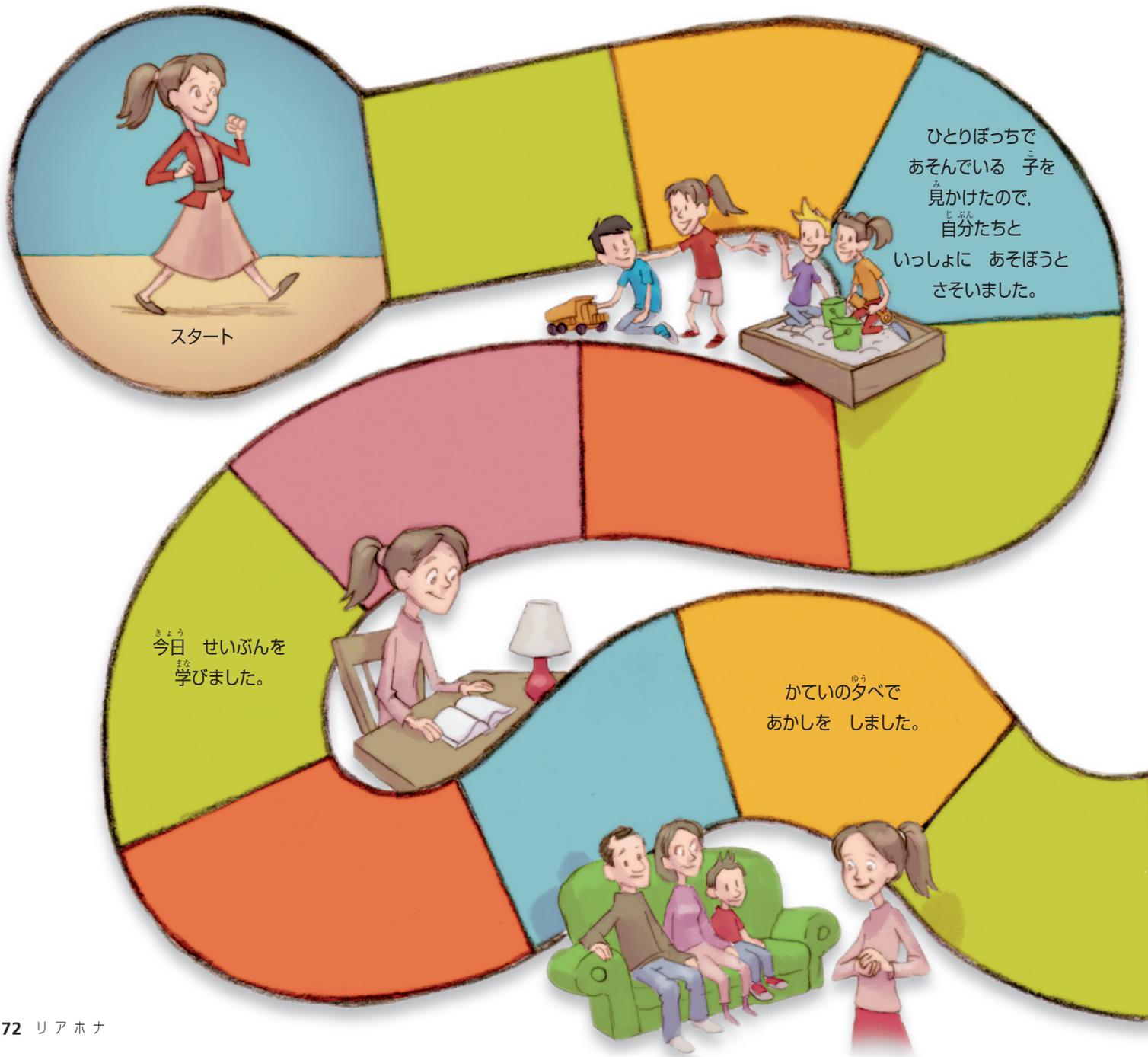
ひつようなもの——さいころ 一つ、
または、1から6までの 数字を 書いた 6まいの 紙を 小さい紙ぶくろ

に 入れておく。こまの かわりに つかう 人数分の こぜにか まめ、
または、 小さなもの。

あそび方——一人に 一つ こまに なるものを わたし、じゅんばんに さいころを ふるか、数字を 書いた 紙を ふくろから 引きます。さいころの目 もしくは 引いた数字の 数

だけ こまを すすめます。こまが、 せんきょうしとして ふさわしい 行いを 書いたマスで 止まったら、こまを 一つだけ 先に すすめることができます。ぜんいんが、せんきょうしの まつ ゴールに 行くまで ゲームを つづけましょう。

絵 / シェイク・パーカー



親の皆さんへ

慎み深い服装をすることでどのように天の御父と自分自身を敬っているかを示すことができるかを、子供に話してください。宣教師はなぜ慎み深い服装をしていると思うかを、子供に質問してみましょう。

伝道活動について子供に証^{あかし}をしてみましょう。自分自身の改宗談や、伝道の経験談、あるいはあなたにとって伝道活動がなぜ大切かを話してもよいでしょう。

きょうかい
教会で
けいけんに
していました。



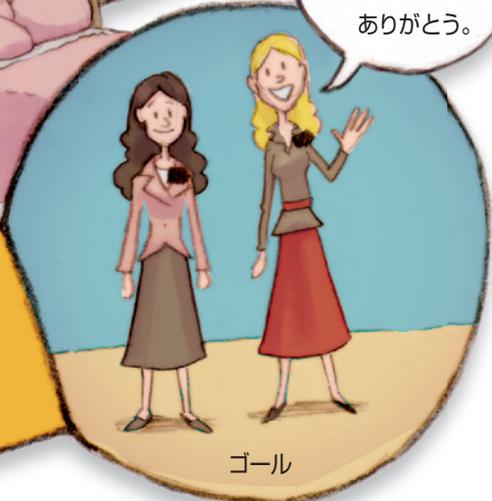
せんたくものを たたんで
お母さんの
てつだいを しました。



せんきょうしのために
おいのりすることを
わすれませんでした。



すばらしい
せんきょうしに
なってくれて
ありがとう。



ゴール

せいさんしきの間
すくいぬし^{あいだ}のことを
かんが
考えました。



教会のニュース

lds.orgでもっと多くのニュースとイベントの情報が得られます〔英語〕。

次の世代を育成するヤングアダルトセンター

教会機関誌

ステファニー・ジーン・ジョンソン

教会のヤングアダルトセンターは次の世代を世の誘惑から守るだけでなく、世の中を変えるために現在と将来における教会の指導者を育成している。

インスティテュートプログラムの延長として、ヨーロッパで最初に設立されたヤングアダルトセンターは宗教クラスだけでなく、ヤングアダルトが集まって夕食を作ったり、宿題をしたり、卓球をしたり、福音を分かち合ったりする場を提供している。

ヤングアダルトが担う教会の成長

2003年の暮れまでに最初のヤングアダルトセンターがデンマークのコペンハーゲン、ドイツのハンブルク、ベルリン、ライプツィヒの4か所に開設された。十二使徒定員会のペリー長老は2004年にゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008）からヨーロッパ中央地域を管理するよう召されたとき、センターの建設計画をさらに推進するよう呼びかけた。

現在ヨーロッパにおけるセミナーおよびインスティテュート地域ディレクター補佐を務めるエリック・プソタ兄弟によると、今日ヨーロッパに住む神権指導者の多くが、当時はまだ30歳未満だった。

「ヨーロッパにおける教会の成長は18歳から30歳の若者を通じてもたらされるというペリー長老の靈感を受けた考えは、ヨーロッパのヤングアダルトやあらゆる職の神権指導者に強烈な影響を与えてきました」とプソタ兄弟は語る。ペリー長老の考えは今日のヤングアダルトにも影響を与えている。「彼らが、教会の成長は自分たちの肩にかかっていることを理解するようになったからです」とプソタ兄弟は話を続ける。

現在、ヨーロッパには140以上のセンターがあり、さらに30のセンターの開設準備が進められている。それらのセンターは皆、世界に福音を広めるために次世代を備えさせている。

ノルウェーで築かれている神の王国と友情

ノルウェー・オスロのヤングアダルトセンターは、ヤングアダルトが王国の建設方法を学んでいる数多くのセンターの一つにすぎない。フランス出身のマチルド・ギラウメット姉妹を例にとると、彼女は福音をもっと学ぶようにという友人の誘いを受けたおかげで、2009年にパリのセンターで宣教師からレッスンを受け始めた。

ギラウメット姉妹は2010年にバプテスマを受けた後、1年の予定でノルウェーに引っ越したが、彼女の証を引き続き強める役割を担ったのが地元のヤングアダルトセンターだった。

「センターは実際、自宅から遠く離れたもう一つの家でした。明らかに、寮の自分の部屋よりずっと温かく迎え入れてくれました。センターの夫婦宣教師は素晴らしい人たちで、まるで両親のように慰めや忠告を与えてくれるようになりました。パリでもオスロでも、福音について話すために、いつでも夫婦宣教師のもとを訪れることができました。家ではそんなことはできません。家族の中でわたしだけが教会員なのですから」とギラウメット姉妹は語る。

2009年にバプテスマを受けたサム・バスネットも家族の中では唯一の教会員である。オスロセンターでの伝道活動は彼がネパールにいる親戚を訪れるために帰郷したとき、彼らに福音を伝える助けになった。彼らに神権やモルモン書について教えることができたのは、オスロで宣教師がほかの人々にそれらの原則を教えるのを手伝っていたおかげである。

「わたしの家族はわたしが感じているように感じたいと望んでいました。家族は『福音を聞く以前のサム』と『福音を聞いた後のサム』の違いを見たからです。以前のわたしには希望がなく、消極的でした。わたしはバプテスマを受けた後、よくセンターを訪れていましたし、以前より何もかもが



ヤングアダルトのセンターは次世代が集い、福音のメッセージを携えて世に影響を与える備えができる場所である。

うまくいくようになったのです」とバスネット兄弟は語る。

センターで御霊^{みなたま}によって高められ、励ましを受けたと感じてきたのはバスネット兄弟だけではない。スコットランドのベンジャミン・ケールは過去2回の夏をオスロで働いて過ごし、センターがほんとうに大切なことを思い起こさせてくれる場所となっていることが分かった。

「センターはこの世からの避け所です。そこにいると確かに安全な場所にいるという平安を感じます。幾つかの経験を通して大いに勇気づけられたことがあります。センターに集っていたときのことで。特に家庭の夕べで実際に自分が悩んでいることや難しいと思える事柄について話をしていくうちに大いに励まされたのです。これらの経験は今でも福音の簡潔な原則の重要性を思い起こさせてくれます」とケール兄弟は語る。

ヤングアダルトと将来の指導者を育成する

ヤングアダルトのセンターは、青少年が福音の中で友人や家族を強めるのを助ける以上の役割を

果たしている。指導者を育成しているのである。ヤングシングルアダルトはセンター内の評議会でも順番に指導者を務めるよう召され、様々な活動やレッスンを計画する。

ウガンダ出身で、現在はノルウェー市民となっているバーバラ・マトブもそのような経験を得た。「神が御自身の子供たちすべてに抱いておられる愛を感じる機会となりました。おかげで教会組織に関するわたしの証は強められました。また神の王国は人が独りで築くのではなく、大勢の人が一致団結して築くものであることを知りました」と彼女は語る。

ヤングアダルトは将来、教会で受ける召しを果たせるように訓練を受けているが、同時に有能な配偶者や両親になるための訓練も積んでいる。彼らは公共の場だけでなく家庭においても世の中を変えるために備えられている。

「ヤングシングルアダルト評議会でも学ぶ指導の原則は彼らが親になったときに役立つような原則です。両親と同様に忍耐し、関係を築き、進むべき道を示し、人々が御霊の促しに従い、自分の選択の自由を使って課題を成し遂げるよう励ますのです」とナンシー夫人とともにノルウェー・トロンヘイムのセンターで奉仕しているジェラルド・ソレンセン兄弟は語る。

ヤングアダルトのセンターは、教会の未来を担う指導者をより迅速に育成する役割を堅実に果たすことによって、今後も世に広がる罪と闘い続ける。

「ヤングアダルトはセンターに来て福音を学びます。それは単に理論的に理解するのではなく、福音を分かち合う際の原則を実践したり、信仰の異なる友人に仕えたりしながら学んでいくのです。センターはよく備えられた新たな世代が熱意を持ち、永遠の観点から主に仕えることができるように助けます」とプソタ兄弟は語る。■

奉仕の日に参加する ブラジルとイギリスの聖徒

昨年4月に大管長会が翌年実施される奉仕の日に参加するよう全教会員に勧めてから、世界中の聖徒がその呼びかけに応じてきた。少なくともイギリスとブラジルの2か国に所属するユニットはそれぞれ自国の会員たちと協力し合って活動に参加してきた。

イギリス

2011年9月5日月曜日、イングランド周辺の11のステークから集まった会員が、七十人で地域会長のエリック・W・コピシュカ長老とともにトットナムマーシズで行われたヘルピングハンズ・プロジェクトに参加するために集合した。

この行事は教会福祉プログラムの75周年記念行事というだけでなく、2011年のロンドン首都クリーンアップ運動の復興となる公式行事でもある。5時間にわたって市の職員と協力して草取り、花壇作り、枝払いや伸びすぎた草木の刈り込み、リーバレー公園のごみ拾いなどをした。

同日、ロンドンのほかの地域に住む会員はハイブンハウス小児ホスピスとリチャードハウス小児ホスピスでヘルピングハンズ・プロジェクトに参加した。

リチャードハウスでは、ストラトフォードワードの会員18人が事務所の塗装、草取り、植木の刈り込み、敷地の掃き掃除、道具の

修理などを行った。今回の活動は当ホスピスが初めて教会とかかわりを持つ機会となったと、リチャードハウスでの奉仕プロジェクトマネージャーであるシャロット・イレラは語る。

「ボランティアの人たちが熱心に喜んで仕事を引き受けてくれる姿に感動しました。通路の掃き掃除といった簡単な仕事にも最善を尽くしてくれました」と彼女は語る。

過去数か月にわたって、イギリスと北アイルランドの教会員は全国で数十もの奉仕活動を組織し参加してきた。

**2011年
9月5日に
イギリスの11以上の
ステークが集結し、
ロンドン市内と
周辺地域の
3か所で
奉仕活動を行った。**

写真(リッジー・フレイリッソンの厚意により掲載)



ブラジル

2011年7月30日、モルモン・ヘルピングハンズの12周年を祝い、ブラジル各地の数百に及ぶ奉仕プロジェクトの現場で、黄色いベストを着た人々が奉仕した。この行事は末日聖徒イエス・キリスト教会のプログラムで、地域社会や、支援を必要とする被災者への奉仕を目的としている。

モルモン・ヘルピングハンズ (*Mãos que Ajudam*) は実のところ、教会の人道支援活動について友人や近隣の人々に知らせる手段としてブラジルで始まった活動であるが、現在では主要な年間行事となっている。

今年の奉仕の日は12万人の男女や子供が道路や学校の清掃、建物の修繕、公園の美化などをする中、歌や笑い声、拍手があふれていた。ラテンアメリカの最大国であり人口密度が最も高い当国において、ほかの奉仕プロジェクトに参加して実施されたものである。会員は地域社会の住民と手を携え、あらゆる人々の益となる奉仕活動を行った。

ベロオリゾンテ、レシフェ、バリアでは6,000人以上のボランティアが Dengue 熱と闘うために結集した。リオデジャネイロでは公立学校と保育所の清掃を行った。ポルトアレグレでは、1,500人のボランティアが学校の清掃を行い、薬物乱用防止に関する講演

会に参加した人もいた。

奉仕の日の2か月以上も前から、500人を超えるボランティアが、無償で提供される食料を集めるために働いた。集められた食料は7月30日に、サンホセに住む貧しい家族175世帯に配られた。

ブルメナウの会員はおよそ300ポンド(136キログラム)の食料を *Casa de Apoio às Crianças Portadoras de Mielomeningocele e Neoplasia* (脊柱水腫および腫瘍に苦しむ子供のための療養所) に寄付した。またボランティアの人々は療養施設の職員に基本的な食糧貯蔵の原則を教えた。

「湿気の多い環境で多くの食糧を腐らせていましたが、学んだ技術のおかげで、所内の食品貯蔵室で食品を保存できるようになりました」とソーシャルワーカーのアドリアヌス・J・バックス・ルーフは語る。■

編集者記——あなたの奉仕の日の経験談を LDS.org/welfare/75years/search?lang=eng までお寄せください。

訂正

「リアホナ」2011年10月号73ページに掲載されている写真の著作権表示は「写真/メーガン・トールマン」とするべきでした。■

2012年の ミューチャルのテーマ 発表—— 「立って光を放ちなさい」

2012年のミューチャルのテーマは、「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであ[る]」です(教義と聖約115:5)。

この聖句は1838年にアメリカ合衆国ミズーリ州ファーウエストで啓示の一部として預言者ジョセフ・スミスに与えられた。当時の教会管理役員に向けて述べられた言葉であるが、同時にミューチャルのテーマとして全教会の12歳から18歳の青少年にも当てはまる。

今回のテーマはミューチャルの開会行事を充実させるためや、青少年が聖餐会で話をする際のテーマとして活用できる。またキャンプ、ユースカンファレンス、デイポーショナルなど青少年の活動の中心テーマにすることもできる。また特別な文化行事のほか、ダンス、音楽、劇などの活動のスローガンとしても活用できる。

教会指導者は地元の青少年の指導者がDVD『若人の強さ(メディア版)2012 DVD——立って光を放ちなさい』を使ってテーマを紹介するよう提案している。そのDVDは2011年11月までに各ユニットに送られた。

このDVDは年間を通して定員会集会やクラス、ユースカンファレンス、その他の青少年の活動の際に補助教材として活用できる。広東語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、標準中国語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語で入手可能。

その他の補助教材も『リアホナ』や *New Era* (ニューエラ) などの機関誌、2012年初頭から *LDS.org* でも見ることができる。■

世界中の集会所に 接続される インターネット

教会はワイヤレスでアクセス可能な高速インターネット回線を接続する予定で、世界中の集会所の85パーセントで利用可能になる。

会員は集会所から、教会の雇用サイトへのアクセスだけでなく、集会所から家族歴史活動への参加もできるようになる。教会指導者は記録を管理したり、宣教師申請書を提出したり、放映による指導者訓練集會に参加したりすることができるようになる。また教師はオンラインの教会制作メディアを活用してレッスンを補足することもできる。■

東アフリカの飢饉に 支援を提供する教会

ひどい干ばつの中、緊急支援を必要としている東アフリカで、1,150万人以上の人々に教会は様々な組織と手を携えて食糧、医薬品、衛生キットやテントなどの飢餓救済物資を提供している。

この取り組みに協力したい会員は人道支援基金に寄付することができる。■

MTCでの 訓練を強化する、 伝道地での 新任宣教師訓練

2011年8月に開始された取り組みにより、宣教師訓練センターを巣立ったばかりの宣教師は、さらに12週間の訓練を受けることになった。

プロボ MTC のディレクターであるリチャード・ヒートン兄弟の説明によると、伝道地での訓練は新しいプログラムというよりは宣教師が MTC で受ける訓練の延長と言える。

「手引き『最初の12週間』では、訓練を施す宣教師と新任同僚宣教師が最初の12週間に最も必要とする資料は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』である点が強調されています。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』はできるかぎり早く主の僕として十分な働きができるようになるための指標です」と彼は語る。

伝道部会長たちは新しい宣教師のために3つの訓練資料と新任同僚の学習ビデオ付き現地訓練に早速取り組み始めている。■

これらの話およびその他の話を news.lds.org で読んでください。



エルサルバドル・サンサルバドル神殿は世界で135番目の神殿で中央アメリカでは4番目の神殿となる。

奉献されたサンサルバドル神殿

2011年8月21日日曜日、大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長によってエルサルバドル・サンサルバドル神殿が奉献された。当神殿は中央アメリカでは4番目、世界では135番目の神殿となる。

8月20日土曜日に行われた二つの文化的祭典にはおよそ1万6,000人が参加し、歌と踊りによってその地域の豊かな文化と歴史が披露された。

Create.LDS.org、オーディオファイルを投稿するよう会員に勧める

教会では会員たちがモルモンチャンネルラジオやその他の教会メディアを活用して質の高い音楽やその他の音声ファイルを create.lds.org に投稿するよう勧めている。会員は news.lds.org (「create.lds.org」をキーワードにして検索) で投稿に関する勧めを読み、create.lds.org にファイルを送ることができる。

オンラインで利用できる 『2012年度 分かち合いの時間の概要』

中央初等協会会長会は2012年の分かち合いの時間のテーマは「正義を選ぶ」と発表された。初等協会会長会は LDS.org の「Serving in the Church (教会での奉仕)」セクションにある「Primary (初等協会)」リンク下の概要にアクセスできる。

これまで毎年7月に、概要10冊が各ユニットに配付されていたが、オンラインでのアクセスが可能になったため、7月の定期便は廃止されて、年次教科課程に沿って3冊が自動的に各ユニットに送付される。■

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

力強い助け手

わたしはこれまでずっと『リアホナ』を定期購読していますが、お休み会員だったところはごくたまにしか読んでいませんでした。ある日物置を掃除していると古びた『リアホナ』が何冊か出て来ました。それらに目を通していき、ある話に心引かれました。それは何年もの間教会に出席していなかった姉妹の話でしたが、彼女は教会に戻るつもりがまったくありませんでした。しかし靈感を受けたビショップがその姉妹をある責任に召したところ、彼女は悪い習慣を断ち切って教会に戻って来たというのです。この話にわたしは深く心打たれ、そのことが教会へ戻るきっかけとなりました。数年たった今、我が家では『リアホナ』が力強い道具となっています。この機関誌に掲載されている勧告、指針、証は毎日わたしの役に立っています。

モエマ・リマ・サレス・プロエテル (ブラジル)

子供と大人のための物語

わたしは幼い子供を持つ母親で、毎晩寝る前に『リアホナ』から子供向けの話をお子に読み聞かせるのが大好きです。それはわたしにとっても、常に祝福でした。イエス・キリスト、預言者ジョセフ・スミス、啓示、祈り、その他多くのことについて学んできたからです。良い習慣は続けましょう。

シルビア・ルイス・デ・ムニョス (エクアドル)

ご意見、ご感想を lihona@ldschurch.org にお送りください。掲載されるお手紙は、紙面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。■

「日々の祝福に神の手を認める」24 ページ——主の祈り (マタイ 6:9 - 13 参照) を読み、家族に「日ごとの食物を、きょうもお与えください」という聖句はどのような意味だと思うか尋ねるとよいでしょう。その後、クリストファーソン長老が「日ごとの食物」について語っている記事の最初の段落について、かいつまんで話してください。イエス・キリストが命のパンであるというあなたの証を付け加えてもよいでしょう。

「ジョージ・アルバート・スミス——自分が教えたとおりに生活した人物」32 ページ——ジョージ・アルバート・スミス大管長は「もしわたしたちがイエス・キリストの福音にほんとうに証を持っているならば、それが生活に……表れるようになると信じて」いました。家族とその記事をもう一度読んでください。その後、人々に親切な態度で接したスミス大管長の模範から学んだことを家族に尋ねてもよいでしょう。どのようにすれば家族がより親切に接することができるか尋ねてください。

「上を見る」42 ページ——若い宣教師としてクック長老が経験したことを分かち合い、その記事の残りの部分をかいつまんで話してくだ

さい。自分についてほかの人がどう思うかより、天の御父がどう思われるかに焦点を当てるにはどうすればよいか家族に尋ねてください。サムエル上 16:7 を読んでレッスンを終えてもよいでしょう。



「聖約を守る」48 ページ——家族のだれかが伝道に出る準備をしている場合、その記事全体を読んでホランド長老が指摘している重要なポイントのリストを作りたいと思うでしょう。「この業の鍵は聖約を守ることにあります」という言葉を強調してください。聖約とは何かについてもう一度読み、聖約を交わすために今どのように備えられるかについて子供たちに尋ねてください。

「天のおん父はそばにいてくださる」69 ページ——「子供のいのり」(『子供の歌集』6) を歌うのもよいでしょう。祈りに関するウィクソム姉妹の経験を読み、家族が個人の祈りに関する経験を分かち合うように促してください。「祈りによって慰めを得たときのことを思い浮かべられますか」と尋ねるのもよいでしょう。祈りに関するあなたの証でレッスンを締めくくってください。■

楽しい活動、永遠のメッセージ

10 代のときは、家庭の夕べにしぶしぶ参加していました。もっと楽しいことがあるはずと思っていました。

退屈な家庭の夕べが何回か続いた後のある月曜日の夜のことで。母が台所のテーブルをふいてから、わたしたち一人一人の前に小さなチェリーパイを置きました。わたしはフォークを探してしきりに辺りを見回しましたが、見つかりません。母の説明によると、これからパイ食い競争をするが、道具も手も使ってはいけなというのです。勝者には大いに自慢する特権が与えられます。

皆が先を争って食べました。間もなくテーブルも顔も髪の毛までもチェリーパイだらけになりました。だれが勝ったのかは覚えていませんが、家族で笑い転げ、一緒に過ごすことを心から楽しんだことは覚えています。あの晩はまだ十分に理解していませんでしたが、今わたしは家庭と呼べる安全で大好きな場所があること、自分を見守ってくれる人々がいることをとても感謝しています。

確かにあの晩、歌やレッスンもありましたし、母は準備と掃除にかなりの時間を取られたに違いありません。しかし当時もその後もずっとわたしが必要としていた家族の大切さについてメッセージを伝えてくれた活動に感謝しています。■

ヘザー・モックラー・テューシャー (アメリカ合衆国、カリフォルニア州)

熟練者から学ぶ

ジョージ・C・ロビンソン

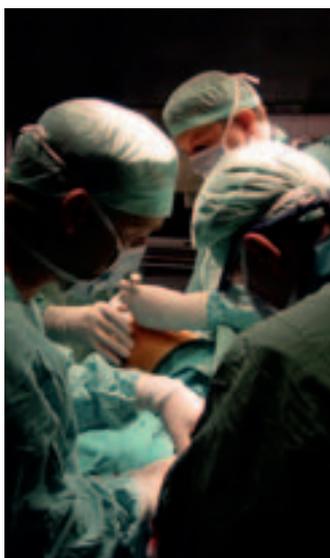
外科医としての腕をどのように身に付けたのかと聞かれることがよくあります。講義を受け、手術の現場に立ち会い、そしてようやく手術を執刀する準備ができるのではと推測する人もあるでしょう。訓練の場では「一を見て、一を行い、一を教える」という一見皮肉混じりとも思える言い方がありますが、この言い回しが真理から程遠いかというと必ずしもそうでもありません。

わたしは、優秀で忍耐強い多くの医師から指導を受けて、専門的な知識や技術を身に付けました。まず初めは肩越しに手術を見学し、次に少し近くで見られるようになり、1年ほどそうした見学を主とした研修を受けた後、小さな割り当てが与えられるようになりました。それは執刀する外科医とその「第一助手」(外科医の助手)の補助をする責任でした。

翌年には執刀医の向かい側に立って、簡単な手術の第一助手を務めることができるようになりました。その1、2年後にはもっと複雑な手術の第一助手を務めることが許されました。さらに、ヘルニアの治療といった最も簡単な手術を執刀させてもらえるようになりました。ただしその時は経験を積んだ外科医がわたしの第一助手を務めてくれました。

医学部終了後7年にわたる研修期間の最後の年には、複雑な手術を任されるようになり、外科医がわたしの第一助手をしてくれました。偉大な教師というのは補佐することで手術の流れをより円滑にできることをわたしは知りました。彼らはわたしに、何をすべきかを明解にしかも簡潔に教えてくれたのです。それはまさに彼らが同じく研修の課程を通して身に付けた方法でした。

この非常に卓越した熟練の外科医からの指導を十分に理解することができたのは、訓練が終わり、外科医としての道を歩み始めてから



外科医を目指す
医学生だった
わたしの傍らには、
自分より
技術にたけた人が
いつもいました。
神の子である
わたしには、
これと同じ機会が
与えられています。

のことでした。ところで30年たった今日でも、こんにち恩師が骨身を惜しまず教え、示し、正してくれた技術を日々用いるときに、彼らのことが心に浮かびます。

福音の原則を学ぶ場合も例外ではありません。わたしたちは、非常に忍耐強い教師である御方から、経験を通して教えに教えを受けます。わたしたちはその御方を仰ぎ見てその模範に従い、霊の導きを求めます。すると天の御父は、わたしたちを祝福して導きを与えてくださるのです。それは聖霊を通して与えられることもありますし、生ける預言者の言葉や聖文、あるいは人々の愛や奉仕を通して与えられることもあります。

わたしたちが揺るぎない確信を持ったときに、その導き手は傍らにお立ちになり、わたしたちの行く手に立ちちはだかる障害物を取り除き、必要に応じて過ちを正し、わたしたちの問いに答えてくださいます。またふさわしくあるならばますますわたしたちに深い信頼を寄せてくださるのです。

外科医を目指す学生の中には、人に頼らずに自分なりのやり方でやってみたいと躍起になる人がいます。同じように、時としてわたしたちは、すべてに熟練した天の御父の導きを受けようともせずに行動することがあります。しかし長年外科医として働いてきて分かったことは、今でも常に、自分よりも知識の豊富な第一助手がいてくれたらと、心から願っているということです。生死にかかわる場面に遭遇したときには特にそうです。

わたしたちは前世から福音の中で成長し始めました。現世でも成長し続け、この世の生涯が終わった後もずっとそれが続くことは疑いがないでしょう。わたしたちの経験するどの場面においても救い主はわたしたちよりも先に経験を積んでおられて、成功するのに必要な術すべを示して下さいます。そして主は、ご自分とその熟練した術に頼るようにとすべての人を招いておられるのです。■



「世の光」 ハワード・リオン画

「見よ、わたしは律法であり、光である。わたしに頼り、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、あなたがたは生きるであろう。

最後まで堪え忍ぶ者に、わたしは永遠の命を与えるからである。

見よ、わたしはあなたがたに戒めを与えたので、わたしの戒めを守りなさい。これは律法であり、預言者である。

律法と預言者は、実際にわたしについて証^{あかし}したからである。」

(3 ニーファイ 15:9 - 10)



今年、個人で、家族で、日曜学校でモルモン書を学ぶときに、リーハイのようにわたしたちもこの古代の記録の中から、「望ましいもの〔すなわち〕子孫に主の戒めを残すことができるものであり、したがって、わたしたちにとって大きな価値のあるもの」を見つけることができるでしょう（1ニーファイ5：21）。「モルモン書を子供たちが愛するようになるために、どう助けたらよいか」（14ページ）、「モルモン書の中から答えを見つける」（16ページ）を参照してください。